

令和 3 年度

事業報告書



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society



日本赤十字社静岡県支部

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人 道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公 平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中 立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独 立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉 仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単 一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

目 次

I 支部事業・一般会計決算概要

1 災害救護活動	1
2 赤十字看護師養成事業	11
3 赤十字講習普及活動	12
4 赤十字奉仕団活動	17
5 青少年赤十字活動	24
6 国際活動	28
7 社業振興事業	31
8 評議員会	38
9 一般会計決算概要	39

II 医療事業・医療施設特別会計決算概要

1 静岡赤十字病院	42
2 浜松赤十字病院	45
3 伊豆赤十字病院	48
4 引佐赤十字病院	51
5 裾野赤十字病院	54

III 血液事業概要

静岡県赤十字血液センター	57
--------------------	----

IV 資 料

1 静岡県支部役職員名簿・奉仕者組織役員名簿	61
2 令和3年度主要行事一覧	66
3 日本赤十字社静岡県支部の機構及び沿革	67
4 日本赤十字社静岡県支部施設一覧	70
5 医療施設概況	71

I 支部事業・一般会計決算概要

静岡県支部は、地区分区、奉仕団、協賛委員、有功会、青少年赤十字、ボランティア及び管内各施設などと連携して赤十字活動を行っている。

本年度も昨年度に続き新型コロナウイルスの影響によって、災害救護、赤十字講習普及、青少年赤十字等の活動に制約を受けたものの、折々の局面に応じた感染予防対策を講じながら、出来る限りの事業執行に努めた。

また、コロナ禍で経済が停滞する状況ではあったが当初の計画どおりに社資を確保することができた。

1 災害救護活動

日本赤十字社の災害救護活動は、赤十字の使命に基づいた人道的任務として行う事業である。同時に国が認める救護団体としての活動でもあり「災害対策基本法」をはじめ「災害救助法」や「国民保護法」では、国、県または市町の行う業務に対する協力義務が定められている。

静岡県支部では、これらの災害救護活動に備えて、法律に基づいて「静岡県支部防災業務計画」や「静岡県支部国民保護救護計画」を策定している。加えて本社作成の「東海地震、東南海・南海地震、南海トラフ地震、首都直下地震及び日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震の対応計画」と静岡県発表の「静岡県第4次地震被害想定」を踏まえ、災害に即時対応できるよう常備救護班を編成し、訓練や研修を行い、救護装備を整備するなど、救護体制の強化・充実に努めている。

さらに、日常の火災や風水害等による住家の焼失、損壊などの被災者に対して、災害救援品を交付する活動を続けている。

(1) 災害への対応

ア 令和3年5月1日牧之原市竜巻等災害

5月1日18時30分頃に牧之原市で発生した突風等により、負傷者3名の人的被害、半壊6棟、一部損壊89棟の住家被害等が生じた。

静岡県支部では、牧之原市地区からの要請を受け、翌2日に災害救援品等を配付した。

(ア) 災害救援品の配付

毛布 (枚)	緊急 セット (個)	タオル セット (個)	下着セット (個)		ブルーシート (枚)
			男性	女性	
40	12	40	40	40	30

イ 令和3年7月1日からの大雨による災害

梅雨前線の影響を受けて、静岡県では7月1日から記録的な大雨となった。

この大雨によって、熱海市伊豆山地区での土石流や県内各地で低地の浸水が発生し、死者・行方不明者27名、負傷者3名の人的被害と全壊54棟、半壊11棟、一部損壊37棟、床上浸水114棟、床下浸水329棟の住家被害が生じた。

静岡県支部は、熱海市、富士市、沼津市の被災者に対し、赤十字防災ボランティアの協力のもと各地区を通じて災害救援品を配付した。

さらに、静岡県義援金募集・配分委員会の設置に伴い、7月9日から10月31日まで義援金を募集し、県内外から多くの義援金を受け付けた。

特に被害の大きかった熱海市については、静岡県との連絡調整を進め県との協定に基づき、7月4日に救護班を派遣し、避難者51人のスクリーニング*1、内2人の診療を行ったほか、7月7日から31日にかけて避難所へこのころのケア班を派遣し、避難者約250人を巡回、内66人にこのころのケア*2を行った。

熱海市赤十字奉仕団は、熱海市と他のボランティア団体等と協力し、被災地における拾得物の洗浄作業に取り組んだ。

*1 集団の中から特定の病気等にかかっている人を選別すること。

*2 避難者の不安や悩みに耳を傾けることや、子を持つ避難者への子供の見守り相談等

(ア) 災害救援品の配付

	毛布(枚)	緊急セット(個)	タオルセット(個)	下着セット(個)	
				男性	女性
熱海市	32	2	342	452	584
富士市	39	23	44	0	0
沼津市	7	13	0	0	0
計	78	38	386	452	584

(イ) 義援金の受付（義援金名：令和3年7月大雨災害静岡県義援金）

受付期間	令和3年7月9日から令和3年10月31日
受付方法	銀行振込 全国の赤十字施設及び日赤担当窓口
義援金額	652件 264,072,066円（内静岡県支部受付分：96,940,652円）

このほかの国内義援金受付状況は、10ページに掲載のとおり。

(ウ) 連絡調整員の活動

編成	活動場所	日程	連絡調整員
静岡県支部	静岡県庁、熱海市	7月3日～7月17日	延べ20人

(エ) 救護班の派遣

編成	活動場所	日程	救護班要員
伊豆赤十字病院	熱海市内の避難所	7月4日	6人

（オ）こころのケア班の派遣

編成	活動場所	日程	こころのケア要員（人）
静岡赤十字病院	熱海市内の避難所	7月 7日～7月 9日	3
		7月22日～7月24日	3
浜松赤十字病院		7月10日～7月12日	3
7月25日～7月27日		3	
裾野赤十字病院		7月13日～7月15日	3
引佐赤十字病院		7月16日～7月18日	3
7月28日～7月29日		3	
伊豆赤十字病院		7月19日～7月21日	3
		7月30日～7月31日	3

（カ）赤十字ボランティアの活動

ボランティア	活動場所	活動内容	日程	活動者数
赤十字防災ボランティア	熱海市内、 静岡県支部	災害救援品の搬送、情報収集	7月4日～ 7月21日	延べ17
熱海市赤十字奉仕団	熱海市内	拾得物洗浄作業	7月22日～ 10月26日	延べ326



▲避難所で活動するこころのケア班



▲拾得物の洗浄作業を行うボランティア

（２）救護体制の整備

ア 救護員の登録

大規模災害などが発生した場合に、救護活動を迅速かつ適切に実施するため「静岡県支部救護員登録並びに常備救護班等編成要領」に基づき救護員（災害対策本部要員、救護班要員、血液供給要員）を登録している。

イ 常備救護班の編成

「日本赤十字社救護規則」及び「静岡県支部救護員登録並びに常備救護班等編成要領」に基づき、5つの赤十字病院に11の常備救護班を編成し、災害発生時の救護活動に備えている。

なお、日本赤十字社全体では、常備救護班を486班（令和3年4月1日現在）編成している。

＜常備救護班＞

施設名	救護班数 (班)	救護班要員(人)						
		医師	看護師長	看護師	助産師	薬剤師	主事	計
静岡赤十字病院	5	5	5	18	1	4	14	47
浜松赤十字病院	3	3	3	6	1	3	6	22
伊豆赤十字病院	1	1	1	2	0	0	3	7
引佐赤十字病院	1	1	1	4	0	1	2	9
裾野赤十字病院	1	2	1	4	0	2	6	15
計	11	12	11	34	2	10	31	100

ウ 血液供給要員の配置

「静岡県支部救護員登録並びに常備救護班等編成要領」に基づき、災害などが発生した場合に備えて血液センターに血液供給要員を配置している。

施設名	血液供給要員(人)
静岡県赤十字血液センター（静岡市）	5
〃 沼津事業所	7
〃 浜松事業所	4
計	16

エ 赤十字防災ボランティアの登録

災害などが発生した場合に活動する赤十字防災ボランティアは、被災地の復旧・復興に欠くことのできない存在となっている。

赤十字奉仕団員や個人ボランティアなどが120人登録しており、そのうちリーダーが13人、地区リーダーが73人となっている。

（３）災害救護訓練及び研修の実施

新型コロナウイルスの影響で計画どおりの災害救護訓練や研修は実施できなかったが、Web開催された「日本赤十字社第3ブロック支部合同災害救護訓練」に参加したほか、災害などによって精神的ダメージを受けた人に対するケア活動を学ぶ「こころのケア研修」等を感染対策に十分に留意して実施した。

ア 災害救護訓練

訓練名	開催月日	主催	会場	参加者数
日本赤十字社第3ブロック支部合同災害救護訓練*	10月17日	日本赤十字社 第3ブロック支部	浜松赤十字 病院	静岡県支部 2 浜松赤十字病院 3

＊大規模災害時にブロック各県が協力して円滑な救護活動が展開できるよう、救護班の技術と知識の標準化を図ることを目的として各県持ち回りで毎年開催される。本年度は避難所の巡回診療訓練を参集型で計画していたが、Web による訓練へと変更して実施した。



▲机上での巡回診療や Web で意見交換をする救護班

※例年実施の「静岡県支部・管内赤十字病院合同災害救護訓練」は、新型コロナウイルスの影響により中止。

イ 災害救護研修

研修名	開催月日	主催	会場	参加者数
こころのケア研修	12月11日	浜松赤十字病院	同左	浜松赤十字病院 18
	2月17日	静岡赤十字病院	同左	静岡赤十字病院 4
こころのケア指導者養成研修会	11月29日 ～12月 1日	本社	伊豆赤十字病院	伊豆赤十字病院 4
	2月11日 ～2月13日		静岡県支部	静岡県支部 1
日赤災害医療コーディネートフォローアップ研修会	3月13日	本社	静岡赤十字病院	静岡赤十字病院 4 静岡県支部 2
静岡 DPAT 研修	11月21日	静岡県	静岡県庁	静岡県支部 2

※例年実施の「救護員基礎研修」、「全国赤十字救護班研修会」、などは、新型コロナウイルスの影響により中止。

(4) 災害救援品及び救護装備の備蓄と配付

ア 災害救援品の備蓄

火災、風水害、地震などに備えて災害救援品を備蓄している。本年度は、被災者に配付する物品（毛布、緊急セット、タオルセット、下着セット、タオルケット、安眠セット）の払出が多かったものの従前からの備蓄で充足できたため、補充は行わなかった。

また、感染症対策や着替えや授乳時などにプライバシーを保護する目的で避難所に配備するプライバシー TENT を 30 張整備した。

＜災害救援品払出・補充状況＞

令和４年３月３１日現在

		前年度末	払出（内訳：受払）				補充	本年度末
			交付	戻入	破損	計		
毛布(枚)		8,182	250	2	0	248	0	7,934
緊急セット(個)		3,373	132	0	22	154	0	3,219
タオルセット(個)		12,410	553	16	0	537	0	11,873
下着セット (個)	男性	3,279	537	0	4	541	0	2,738
	女性	3,372	665	2	0	663	0	2,709
タオルケット(枚)		2,290	0	0	0	0	0	2,290
安眠セット(個)		1,240	10	0	0	10	0	1,230
プライバシーテント（張）		30	0	0	0	0	30	60

＜再掲 災害救援品備蓄状況：保管場所別＞

令和４年３月３１日現在

		支部倉庫 (追手町)	支部倉庫 (国吉田)	伊豆病院 倉庫	血液 C 沼津倉庫	浜松病院 倉庫	引佐病院 倉庫	地区区分 分置	計
毛布(枚)		218	2,020	690	1,540	1,900	599	967	7,934
緊急セット(個)		146	948	228	588	750	60	499	3,219
タオルセット(個)		1,719	1,800	1,200	1,780	3,000	300	2,074	11,873
下着セット (個)	男性	410	180	299	520	540	0	789	2,738
	女性	531	30	299	520	540	0	789	2,709
タオルケット(枚)		120	1,370	0	400	400	0	0	2,290
安眠セット(個)		30	350	0	390	360	100	0	1,230
プライバシーテント(張)		31	18	0	11	0	0	0	60



▲プライバシーテント

イ 救護装備の整備

静岡県支部、病院、血液センター、地区分区に救護用車両、倉庫、機材を整備している。

本年度は、災害救護活動の充実を図るため、静岡県支部の救護用車両を 1 台更新、地区分区に救護用車両 3 台と救護用倉庫 4 棟を整備した。

<救護用装備一覧>

令和4年3月31日現在

品名		支部	病院	血液 センター	地区 分区	計	本年度の整備、更新数
救護用車両		9	19	—	72	100	支部 更新1台 地区分区 増車3台
救護用倉庫		2	3	1	112	118	地区分区 増設4棟
機材							
	dERU 一式	1	—	—	—	1	
	医療セット	2	10	—	—	12	
	携帯型医療セット	0	5	—	—	5	
	放射線防護服セット	7	77	—	—	84	
	テント	11	8	—	—	19	
	エアテント	1	6	—	—	7	
	担架	10	29	—	—	39	
	折畳寝台	74	299	—	—	373	
	発電機	6	14	—	—	20	
	投光器	2	10	—	—	12	
	浄水装置	1	5	—	—	6	
	災害対策本部用ノートパソコン	10	—	—	—	10	
	情報収集用タブレット端末	1	—	—	—	1	
	救護班用ノートパソコン	—	9	—	—	9	
	簡易トイレ	24	109	—	—	133	
	備蓄食料（単位：食）	360	420	—	—	780	
	備蓄飲料水（単位：本/500ml）	432	576	—	—	1,008	
	支部災害対策本部代替設備*	—	—	1	—	1	
	衛星電話	5	8	9	—	22	
	災害時優先電話 （回線数）	固定電話	2	7	3	12	
		携帯電話	3	5	6	14	
	業務用無線機	基地局	2	2	—	4	
		移動局	48	38	25	111	
	簡易アンテナセット	2	5	—	—	7	

* 災害対策本部用資機材、業務用無線アンテナ設備、備蓄食料 他



▲救護用車両



▲救護用倉庫



(5) 災害救援品及び災害死亡者弔慰金の交付

県内で発生した火災、風水害などによる被災者に対し地区区分を通じて、毛布、緊急セット、タオルセット、下着セットの災害救援品や災害死亡者弔慰金を交付した。

＜本年度の災害救援品及び災害死亡者弔慰金交付状況＞

地区区分名	被災		災害救援品				災害死亡者 弔慰金(円)
	世帯	人数	毛布	緊急セット	タオルセット	下着セット	
熱海市	89	163	32	2	342	1,036	0
伊豆市	2	3	3	2	3	10	0
伊豆の国市	2	8	11	2	7	9	0
三島市	7	15	1	1	1	2	10,000
沼津市	153	270	13	30	0	0	10,000
裾野市	2	4	4	2	4	4	
御殿場市	1	1	1	1	1	1	
富士宮市	1	1	1	1	1	1	
富士市	30	77	55	29	60	12	20,000
静岡市清水区	20	42	29	13	27	30	20,000
静岡市葵・駿河区	4	13	12	3	12	11	10,000
焼津市	6	9	8	5	8	8	10,000
藤枝市	4	7	8	4	7	7	0
島田市	3	15	9	4	11	9	0
牧之原市	3	8	9	3	7	6	0
御前崎市	0	0	5	2	5	5	0
掛川市	0	0	1	1	1	1	0
菊川市	0	0	0	0	7	0	0
袋井市	1	3	2	1	2	2	10,000
磐田市	6	9	5	6	8	8	10,000
浜松市東区	8	16	14	8	14	14	20,000
浜松市西区	1	1	0	0	1	1	0
浜松市南区	3	7	7	2	7	7	0
浜松市北区	2	4	2	2	1	1	0
浜松市浜北区	4	7	7	4	7	8	10,000
浜松市天竜区	1	2	2	1	2	2	0
湖西市	1	1	1	1	1	1	0
清水町	1	6	8	2	6	6	0
計	355	692	250	132	553	1,202	130,000

（６）国内義援金の受付

国内で災害が発生したときに本社や関係機関との協議に基づいて義援金の募集を行っている。
静岡県支部が受け付けた義援金は、下表のとおりである。

令和４年３月３１日現在

義援金名	金額(円)	
	本年度分	累計
平成 30 年 7 月豪雨災害義援金	57,575	181,547,699
令和 2 年 7 月豪雨災害義援金	243,208	41,377,504
令和 3 年 2 月福島県沖地震災害義援金	156,193	371,383
令和 3 年 島根県松江市大規模火災義援金	75,765	同左
令和 3 年 7 月大雨災害義援金（静岡県*1）	96,940,652	同左
〃（全国*2）	140,279	同左
令和 3 年 台風第 9 号等大雨災害義援金	207,411	同左
令和 3 年 8 月大雨災害義援金	273,575	同左
令和 3 年 長野県茅野市土石流災害義援金	267,215	同左
令和 4 年 3 月福島県沖地震災害義援金	73,495	同左
計	98,435,368	321,274,978

*1 静岡県を指定して寄せられた義援金

*2 寄託先を指定せずに寄せられた義援金

（７）臨時救護所の開設

高齢者・障がい者(児)の団体主催の行事に赤十字看護奉仕団の協力を得て臨時救護所を開設し、来場者等を対象として応急手当等の救護活動を行った。

＜本年度の臨時救護所開設状況＞

活動内容	開設回数	実施延日数	延派遣者数
高齢者・障がい者等の各種行事	20	20	40

2 赤十字看護師養成事業

日本赤十字社の看護師は、保健医療をはじめとして災害救護や国際救援など多岐にわたり活動する必要がある。

静岡県支部では、これらの業務に対応できる看護に関する幅広い能力を持った赤十字看護師を養成するため、愛知県豊田市にある日本赤十字豊田看護大学の学生を対象とした奨学金制度を設けている。

本年度は 26 人の奨学生が在学しており、うち 4 年生（第 15 期生）2 人が県内赤十字病院に入職する予定である（静岡 1 人、浜松 1 人）

また、県内の赤十字病院に対して、本社及び看護協会等が実施する看護師研修への参加費用や看護師確保のための募集広告費用を助成した。

＜本年度の日本赤十字豊田看護大学奨学生＞

1 年	2 年	3 年	4 年	計
9 人	6 人	9 人	2 人	26 人



▲日本赤十字豊田看護大学での実習の様子

3 赤十字講習普及活動

本年度も新型コロナウイルスの影響による制限下での普及活動にあたり、参加者の体調確認、マスクの着用、3密の防止、器材を共用しないなどの感染対策を十分に講じた上で極力講習を開催する方針とした。

健康で安全な生活を送るための知識と技術を身につけることを目的とした4つの赤十字講習（「赤十字救急法」「赤十字水上安全法」「赤十字健康生活支援」「赤十字幼児安全法」と、減災をテーマに災害や避難所生活に役立つ知識と応急手当を学ぶ「赤十字減災セミナー」や小中学生を対象とした「赤十字BLS*入門講座」、衣服を着たまま水に落ちた場合の浮き身の取り方や水にはいない救助法等を学ぶ「着衣泳講習」を普及するため、多くのボランティア指導員と各地区分区の協力を得ながら県内各地で講習を開催した。

*BLS（Basic Life Support：一次救命処置）

心肺蘇生（胸骨圧迫と人工呼吸）やAED（Automated External Defibrillator：自動体外式除細動器）を用いた除細動など、心臓や呼吸が停止した傷病者を救命するために行う緊急処置

（1）赤十字救急法講習

赤十字救急法講習は「病気やけが、災害から自分自身を守るとともに、傷病者を正しく救助し、医師または救急隊などに引き継ぐまでのBLSと応急手当を学ぶ講習」である。

感染予防のため参加者同士が接触する実技は動画視聴とし、器材の消毒を徹底して講習を実施した。心肺蘇生の演習では受講者に1体ずつ訓練人形を配置したことで、実技指導を効率良く展開できた。

<本年度の赤十字救急法講習実施状況>

講習区分	計画回数	実施回数	受講実人数	開催地区分区実数	指導員延人数
基礎講習	70	63	1,156	9市 1町	174
救急員養成講習	38	13	322	3市	80
短期講習	200	120	2,962	17市 2町	255
BLS入門講座	50	44	1,986	11市	107
計	358	240	6,426	(21市 2町)	616



▲簡易人形（右側）を活用した心肺蘇生



▲器材消毒セット

（２）赤十字水上安全法講習

赤十字水上安全法講習は「水を活用して健康の増進を図るため、また水の事故から生命を守るために、泳ぎの基本や溺れた人を正しく救助する方法などの知識と技術を学ぶ講習」である。

本年度は、新型コロナウイルスの影響により「救助員Ⅰ養成講習」は中止したが、その内容の一部を抜粋し、短期講習を実施した。

また、雨天時に「着衣泳」の代替として実施していた「水に入らないレスキュー」を天候に関わりなく事前に選択できるよう変更して実施した。

＜本年度の赤十字水上安全法講習実施状況＞

講習区分	計画回数	実施回数	受講実人数	開催地区区分実数	指導員延人数
救助員Ⅰ養成講習	7	0	0	—	0
短期講習	15	15	339	7市	42
着衣泳	30	42	1,192	15市 2町	195
水に入らないレスキュー		22	1,019	4市 2町	104
計	52	79	2,550	(18市 3町)	341



▲溺者役を人形で代用（水上安全法短期講習）



▲陸上からの救助（水に入らないレスキュー）

（３）赤十字健康生活支援講習

赤十字健康生活支援講習は「自身が高齢期を迎える前からの健康管理、高齢者の自立に向けた介護のほか、高齢者への理解、地域における高齢者支援などについて学ぶ講習」である。

本年度は、中学生を対象として授業時間（50分）に合わせた短期講習を試行したほか、新型コロナウイルスの感染対策として、オンライン講習として開催した。

＜本年度の赤十字健康生活支援講習実施状況＞

講習区分	計画回数	実施回数	受講実人数	開催地区区分実数	指導員延人数
支援員養成講習	11	0	0	—	0
短期講習	40	18	418	5市	23
災害時高齢者生活支援講習	20	9	84	7市	13
計	71	27	502	（10市）	36



▲中学生の授業時間に合わせた講習
（健康生活支援講習短期講習）



▲オンラインで行った講習
（災害時高齢者生活支援講習）

（４）赤十字幼児安全法講習

赤十字幼児安全法講習は「子どもの命を守り社会全体で大切に育てるために、子どもに起こりやすい事故の予防と手当の方法、家庭内での看病や災害時における支援など、生活の中で役立つ知識と技術を学ぶ講習」である。

新型コロナウイルスの感染対策として、心肺蘇生の器材を1人で1個使用できるようペットボトルを人形の代用とするなどして実技を行ったほか、講習内容の一部を抜粋してオンライン講習として開催した。

＜本年度の赤十字幼児安全法講習実施状況＞

講習区分	計画回数	実施回数	受講実人数	開催地区区分実数	指導員延人数
指導員養成講習	1	0	0	—	0
支援員養成講習	12	0	0	—	0
短期講習	50	39	561	11市 1町	70
災害時における乳幼児への対応講習		5	56	4市	11
家族で災害に備える		1	2	1市	3
計	63	45	619	(11市 1町)	84



▲ペットボトルを使用した心肺蘇生
(幼児安全法短期講習)



▲オンラインで行った応用包帯
(幼児安全法短期講習)

(5) 赤十字減災セミナー

赤十字減災セミナーは、大規模災害が発生した時にその被害をできるだけ小さくする取り組みをテーマに、赤十字の持つ応急手当や避難所での過ごし方のノウハウを活用して自助、共助に役立てることを目的としている。

避難所などでの集団生活で役立つ、新聞紙を用いたスリッパやペーパーバッグの作製のほか、本年度は、被災時の車中泊を考慮してエコノミークラス症候群の予防法を実技に加えるなど、内容をリニューアルして講習を実施した。

＜本年度の赤十字減災セミナー実施状況＞

講習区分	計画回数	実施回数	受講実人数	開催地区区分実数	指導員延人数
青少年赤十字加盟校	24	36	2,030	9市	85
加盟校以外の小中高校	15	3	121	2市	6
その他・一般	45	11	292	7市 1町	22
計	84	50	2,443	(13市 1町)	113

（６）赤十字救急法競技会

講習で身につけた救急法の知識と技術を披露することで日常生活における安全意識を高めるとともに、参加者相互の交流とボランティアの連携強化を目的として赤十字救急法競技会を毎年開催している。

本年度は、第 10 回目の開催となる節目の年でもあったが、開催直前に緊急事態宣言が発令されたため、開催を次年度へ再延期した。



4 赤十字奉仕団活動

赤十字奉仕団は、赤十字の理念である人道・博愛の精神のもと、人道的諸活動を実践しようとする人々によって結成されたボランティア組織である。

地域ごとに結成された「地域赤十字奉仕団」、青年や学生の若い世代が中心の「青年赤十字奉仕団」、専門技術を活かして特定の奉仕活動を行う人々で組織された「特殊赤十字奉仕団」が、それぞれの持ち味を活かした奉仕活動を展開している。

静岡県支部は、奉仕団の育成強化を図るため活動に必要な経費を交付するなど、各団の運営を積極的に支援した。（以下、掲載の役員氏名・団員数については令和4年3月31日現在）

（１）地域赤十字奉仕団ボランティア・リーダーシップ研修会の開催

地域赤十字奉仕団のリーダーとして必要な知識・技術の習得と奉仕活動の充実及び向上を図ることを目的として、新任委員長、将来のリーダーや中核的役割を担う奉仕団員を対象に同内容の研修会を例年２回開催している。

本年度は、7月1日からの大雨災害の被災状況を鑑み、沼津市での開催（中・東部地域の団員対象）を急遽取り止めたため、1回の開催となった。

開催月日	会場	参加者数
7月1日（木）	掛川グランドホテル（掛川市）	26
7月8日（木）	コンベンション沼津（沼津市）	災害対応のため中止

（２）地域赤十字奉仕団活動活性化事業

社会福祉や地域に根ざした課題に取り組む地域赤十字奉仕団の活動を奨励するため「静岡県地域赤十字奉仕団活動活性化事業実施要綱」に基づき事業への助成を行った。

助成を受けた奉仕団は、新型コロナウイルスの感染対策に留意しながら事業を実施した。

＜地域赤十字奉仕団活動活性化事業の実施状況＞

奉仕団名	実施期間	事業名	助成額	活動内容
磐田市	令和３年度	地域で輪を広げよう！ 身についた力を役立てよう！	42,265 円	・包装食袋を使った炊き出し指導 ・子育て支援センターの支援 ・減災セミナーの開催
浜松市 三ヶ日	令和３年度	わくわく広場	108,696 円	・デイサービス等利用者を対象に行事を開催
浜松市 浜北	令和２年度 から 令和３年度	JRC 加盟校新原小学校 との交流事業と炊き出し の普及活動	246,237 円	・JRC 加盟校での花壇づくり ・ふるさと学級での炊き出しと防災教室
浜松市 佐久間	令和３年度	高齢者福祉(QOL)向上 の為の事業、福祉施設、 医療施設、自治会 におけるボランティア	91,909 円	・医療用ガウン作成 ・障害者作業所 ・買い物困難者への食事提供 ・防災訓練での炊き出し訓練

（３）地域赤十字奉仕団基礎研修会の実施

赤十字奉仕団員としての知識と技術の基礎を身につけるための研修会である。包装食袋を使用した炊き出し等の研修項目を各奉仕団が選択し、令和３年度から令和５年度の３年間で全ての奉仕団が基礎研修を行うこととしている。

本年度は、新型コロナウイルスの影響を受けて９団が中止し、４団が開催した。

中止した９団は、令和４年度、５年度に実施する。

＜基礎研修会の実施状況＞

開催月日	奉仕団名	参加者(人)	会場
11月17日	掛川市	79	掛川市文化会館シオーネ
1月11日	藤枝市藤枝	20	藤枝市青島北地区交流センター
1月12日	富士市	33	ロゼシアター
1月27日	磐田市	17	福田農村環境改善センター
計（４団）		149	

（４）災害時炊き出し体制の強化

災害時などに地域赤十字奉仕団員が使用する炊き出し器材を地区区分に整備した。

各地域の状況に応じて従来の 800 サイズ（釜の直径約 82 ㍍）と軽量で取り扱いが簡便な 600 サイズ（同約 65 ㍍）を選択できることとし、小規模訓練やイベントでの炊き出しに活用できる体制を整えた。



▲炊き出し器材

ア 炊き出し器材の整備

沼津市 800 サイズ 1 セット

牧之原市 600 サイズ 1 セット

イ 炊き出しリーダー養成講習会

炊き出し器材の取り扱いや、包装食袋を使った炊き出しの指導方法に加え、被災者との接し方について学ぶ炊き出しリーダー養成講習会を開催している。

本年度は、新型コロナウイルスの感染状況から開催を見送ることとした。

（５）奉仕団の組織と活動

ア 赤十字奉仕団静岡県支部委員会

赤十字奉仕団静岡県支部委員会は、地域赤十字奉仕団委員会、青年赤十字奉仕団及び各特殊赤十字奉仕団の委員長、副委員長等で構成されており、静岡県支部管内の各赤十字奉仕団の運営に関し情報交換を行うとともに、活動の推進に向けた協議及び連絡調整を行っている。

本年度は、新型コロナウイルスの感染状況から資料送付により各奉仕団間の情報共有を図った。

◆赤十字奉仕団静岡県支部委員会役員

委員長 小木 絹代（静岡県地域赤十字奉仕団委員会委員長）

副委員長 加藤 君子（静岡県地域赤十字奉仕団委員会副委員長）

// 松永 博（静岡県無線赤十字奉仕団委員長）

// 菅沼 博明（静岡県赤十字水上安全奉仕団委員長）

イ 地域赤十字奉仕団

（ア）地域赤十字奉仕団委員会

地域赤十字奉仕団委員会は、各地域赤十字奉仕団の委員長で構成されており、静岡県支部管内の地域赤十字奉仕団の運営に関し情報交換を行うとともに、活動の推進に向けた協議及び連絡調整を行っている。

◆地域赤十字奉仕団委員会役員（ ）内は所属赤十字奉仕団

委員長	小木 絹代（浜松市浜北）	常任委員	菅沼 厚子（沼津市）
副委員長	加藤 君子（浜松市天竜）	//	根本 年代（裾野市）
//	泉明寺 葉子（函南町）	//	菊川 厚代（藤枝市藤枝）
//	八木 公代（牧之原市）	//	大須賀 直子（藤枝市岡部）
		//	平賀 むつみ（浜松市佐久間）
		//	金子 眞澄（森町）

＜各種行事・イベント等への地域奉仕団の参加状況＞

開催月日	活動内容	実施方法	出席者/人数
4月16日	静岡県地域赤十字奉仕団委員会・役員会	参集	37
—	赤十字奉仕団静岡県支部委員会	文書通知	—
10月12日	静岡県地域赤十字奉仕団委員会	参集	39
10月14日	第3ブロック赤十字奉仕団委員長並びに 担当者会議	WEB	県委員長
1月 17日	赤十字奉仕団中央委員会	WEB	県委員長

（イ）各地区分区の赤十字奉仕団 【23市8町に計40団 団員 5,397人】

地域赤十字奉仕団は、地区分区を活動範囲として地域に根ざした奉仕活動を実践するために結成されている。

本年度は、新型コロナウイルスの感染対策に留意しながら、各市区町において奉仕活動を展開した。

ウ 静岡県青年赤十字奉仕団 【団員 16人】

青年赤十字奉仕団は、将来の赤十字を担う青年や学生がボランティア活動を通して赤十字思想を理解し、奉仕の心を育成することを目的としている。

主に青少年赤十字活動を経験した青年や学生で構成されており、イベントへの協力や青少年赤十字活動への支援、他団体との連携を図っている。

本年度も、新型コロナウイルスに留意し、Webやハイブリット形式により定例会を開催するとともに、SNSを活用した活動紹介や団員募集等の広報活動、全国の青年奉仕団との情報交換に取り組み、組織の充実強化に努めた。



▲Webによる定例会の様子

◆青年赤十字奉仕団役員

委員長	田中 優丞
副委員長	福島 奈桜

<本年度の主な活動内容>

開催月日	活動内容	実施方法	参加者数
4月11日	青年赤十字奉仕団全国協議会	Web	1
6月19日	第3ブロック青年赤十字奉仕団 代表者及び支部担当者会議	Web	3
9月25日	第3ブロック青年赤十字奉仕団交流会	Web	1
3月20日	国際をキーワードに活動する赤十字ボランティアのクロストークイベント	Web	1
3月26日	防災・減災に関するリモート研修	Web	1

エ 特殊赤十字奉仕団

(ア) 静岡県無線赤十字奉仕団 [団員 154人]

静岡県無線赤十字奉仕団は、県内在住のアマチュア無線従事者で組織されている。

静岡県支部社屋に統制局、浜松赤十字病院、伊豆赤十字病院、裾野赤十字病院、下田市に副統制局を設けて、日本赤十字社の災害救護業務を円滑に遂行できるよう、無線通信技術を活かした活動を展開している。

団員相互の通信によって定期的な電波伝播状況調査を毎月2回行っているほか、本年度は各都道府県の奉仕団が行う無線通信訓練に計14回参加した。



▲無線通信訓練

◆静岡県無線赤十字奉仕団役員

委員長 松永 博

副委員長 森下 剛嗣 古田 多津彦 山本 忠男

(イ) 静岡県赤十字安全奉仕団 [団員 305人]

静岡県赤十字安全奉仕団は、赤十字講習指導員や赤十字救急法救急員等で組織されている。

例年は、大道芸ワールドカップ in 静岡の救護ブースや赤十字救急法競技会の運営などが主な活動であるが、本年度はこれらの行事が新型コロナウイルスの影響で中止となったため、活動の機会がなかった。



▲救護ブースでの活動
(大道芸ワールドカップ in 静岡 2019)

◆静岡県赤十字安全奉仕団役員

委員長 大滝 峰雄

副委員長 藤本 孝雄 細見 誠 川瀬 昌昭

(ウ) 静岡県赤十字水上安全奉仕団 [団員 72人]

静岡県赤十字水上安全奉仕団は、赤十字水上安全法指導員や赤十字水上安全法救助員で組織されている。

本年度も、水の事故から命を守る赤十字水上安全法講習を指導したほか、県内の水泳競技大会や、海、河川での監視活動を行った。



▲水泳競技大会での監視活動

◆静岡県赤十字水上安全奉仕団役員

委員長 菅沼 博明
副委員長 平山 和也 杉山 るみ子
高岡 克典

(エ) 静岡県点訳赤十字奉仕団 [団員 12人]

静岡県点訳赤十字奉仕団は、点字講習会を受講した主婦、会社員などで組織されている。

本年度は、日常生活になくてはならないカレンダー、土日・休日当番医表をはじめ、静岡県支部の広報紙「赤十字しずおか」などを点訳し、視覚障がい者の生活を支援する活動を行った。

このほか、一般の方を対象に点字講習会を開催し、点字の普及にも努めた。



▲点字講習会の様子

◆静岡県点訳赤十字奉仕団

委員長 佐藤 和子
副委員長 松永 和子

(オ) 静岡県赤十字看護奉仕団 [団員 35人]

静岡県赤十字看護奉仕団は「VS（ボランティアサービス）たんぽぽ」の愛称で活動しており、県内在住の看護師がその知識と技術を活かして主に地域の保健福祉に関する分野で活動している。

本年度は、高齢者や障がい者を中心とした行事での臨時救護や支部主催講習で託児の協力を行った。



▲支部主催講習での託児協力

◆静岡県赤十字看護奉仕団役員

委員長 名坂 笑子
副委員長 山下 トナエ

(カ) 静岡県柔道整復師赤十字奉仕団 [団員 364 人]

静岡県柔道整復師赤十字奉仕団は、柔道整復師がその知識と技術を活かしたボランティア活動を通じて、明るく住み良い社会を築き上げていくことを目的として活動している。

本年度は、団員を対象に、救急法を取り入れた研修を実施し、知識と技術の向上に努めた。



▲訓練で傷病者の手当を行う団員

◆静岡県柔道整復師赤十字奉仕団役員

委員長 小澤 喜一
副委員長 大川 宏和
松本 洋昭
安間 台

(キ) 静岡県青少年赤十字賛助奉仕団 [団員 70 人]

静岡県青少年赤十字賛助奉仕団は、幼稚園・保育所、小中学校、高等学校などで青少年赤十字の指導に当たっていた教育経験者で組織されている。

本年度も青少年赤十字の普及発展を支援し、青少年の健全育成に寄与するために、青少年赤十字未加盟校への加盟促進や JRC 作品コンクールの審査等の支援活動を行った。



▲JRC 作品コンクールの審査をする団員

◆静岡県青少年赤十字賛助奉仕団役員

委員長 池谷 久治
副委員長 巻口 薫 (東部) 早川 和幸 (中部)
無州 芳裕 (西部) 永井 正 (高校部)

(ク) 静岡県芸能赤十字奉仕団 [団員 22 人]

静岡県芸能赤十字奉仕団は、大道芸パフォーマンスを行う奉仕者組織として結成された。

本年度は、新型コロナウイルスの影響を受けて救急法競技会や献血キャンペーン、大道芸ワールドカップ in 静岡が中止となるなど、活動の機会がなかった。



▲クラウンパフォーマンスを行う団員 (令和元年度)

◆静岡県芸能赤十字奉仕団役員

委員長 藤田 秋夫
副委員長 並木 広和

5 青少年赤十字 (Junior Red Cross) 活動

青少年赤十字は、児童や生徒が「やさしさと思いやりのこころを育むこと」を目的に「気づき・考え・実行する」という態度目標と「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」の3つの実践目標を掲げ取り組んでいる。

本年度は、静岡県青少年赤十字指導者協議会や静岡県青少年赤十字賛助奉仕団の支援のもと、新型コロナウイルスの感染状況を考慮して、出来る範囲で青少年赤十字の活動を推進した。

(1) 加盟校の状況

本年度末の加盟校（園）数は、以下のとおりである。

年度	令和3年度末		令和2年度末	
校種別	加盟校 (園・校)	メンバー数 (人)	加盟校 (園・校)	メンバー数 (人)
幼・保・子ども園	23	1,680	23	1,496
小 学 校	154	44,207	159	43,162
中 学 校	89	22,006	92	22,416
高 等 学 校	103	13,176	108	11,563
特 別 支 援 学 校	5	132	5	247
計	374	81,201	387	78,884

(2) 青少年赤十字活動の状況

ア 青少年赤十字メンバーの養成・強化

(ア) リーダーシップ・トレーニング・センター

青少年赤十字メンバーのリーダー養成を目的とする「リーダーシップ・トレーニング・センター」は、新型コロナウイルスの状況から開催を見合わせた。

(イ) 高校協議会定例会

高校生メンバーの研修及び交流を図ることを目的とする高校協議会定例会を「高校リーダーシップ・トレーニング・センター」の課程として位置づけ、表のとおり実施した。

年間を通して部活単位で青少年赤十字についての講義や清掃活動等に参加し、それらを通じて気づき、考え、実行したことを基に「わたしたちにできること」というテーマで動画を制作した。

<参加：7校 76名>

開催月日	内 容	実施方法
5月～6月	JRC オリエンテーション	各校において実施
6月13日	「ウミガメと環境」について 〈講師〉カメハメハ王国 執事 山本明男 様	Web
9月4日、 12日	海岸清掃を近隣の河川や学校周辺の清掃活動に変更して実施	各校において実施
10月17日	海岸清掃（河川清掃）の報告、反省 SDGs「海洋の保護」について	Web
11月	NHK海外たすけあい街頭募金事前学習（ポスター作製など）	各校において実施
12月	NHK海外たすけあい街頭募金活動	各校において実施
2月6日	各校が制作した動画「わたしたちにできること」の視聴	各校において実施

イ 指導者の養成・強化

赤十字と青少年赤十字活動への理解を深め、各加盟校で「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」に関する実践活動に取り組むことができるよう、指導者等育成のための研修会を開催した。

開催月日	研修会	内 容	実施方法
5月21日	指導担当者研修会	「赤十字とJRC活動」 「JRC活動とSDGsについて」	集合形式を資料送付に変更して実施
6月5日	青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・セナ-指導者養成講習会	「青少年赤十字とリーダーシップ」 「トレーニングセンターの運営について」	全国から参加するため、Web会議形式で実施
6月28日	校長・副校長・教頭研修会	「現代的な課題を活かした道徳教育」 「JRC活動とSDGsについて」	集合形式をオンデマンド配信に変更して実施
9月30日	指導主事対象青少年赤十字研究会	「青少年赤十字の現状とこれから」 「青少年赤十字と国際理解・親善、SDDsで深い学びを」	全国から参加するため、Web会議形式で実施

ウ 青少年赤十字活動の普及・広報

（ア）青少年赤十字の活動を紹介する資料の配付

絵本「ハートラちゃんのおはなし」 670部

（イ）青少年赤十字作品コンクール

応募数942点 ①作文の部 887点 ②ハートラちゃんへの手紙の部 55点

（ウ）加盟促進・加盟校支援を目的とした学校訪問

75校

（エ）地域ぐるみ活動の推進

賛助奉仕団、地域奉仕団、地区分区と連携した活動（炊き出し体験等）を浜北区などで実施した。

(オ) 青少年赤十字防災教育

BLS 入門講座、減災セミナー、炊き出し体験、防災講話を加盟校3校（三島市立山田中学校・静岡市立長田南中学校・島田市立川根中学校）で実施した。

(カ) 青少年赤十字創設 100 周年直前 青少年赤十字スディー・プログラム

リーダーとして必要なことを学ぶ機会とするため、全国から 400 名以上のメンバーが参加する 2 日間のプログラムに静岡県立三島南高校のメンバー3 名が県代表として参加した。



▲奉仕団員の指導を受けて包装食を作製



▲防災ボランティアによる防災講話

エ 海外救援活動への協力

海外の紛争や災害、疾病などに苦しむ人々を支援し、世界平和と人々の福祉に貢献するための活動を加盟校に促した。

実施内容	実施校（園）
青少年赤十字活動資金募集	若竹幼稚園、静岡市立長田東小学校
海外医療協力事業（使用済み切手収集）	静岡市立長田東小学校

オ 青少年赤十字指導者協議会

青少年赤十字の普及と加盟校同士の連携を目的として、加盟校の校長や指導者などで構成された「静岡県青少年赤十字指導者協議会」を組織している。

本協議会の行う青少年赤十字事業の計画を策定するとともに、加盟校相互の連絡や加盟の促進に向けた協議などを行った。

＜静岡県青少年赤十字指導者協議会 評議員会・総会、役員会＞

開催月日	事業	内容	参加者数（人）
4月19日	評議員会・総会	役員改選、事業計画、事業報告審議	33
4月19日	役員会	事業実施にかかる打ち合わせ	8
6月11日	第3ブロック青少年赤十字指導者協議会長及び担当者研究会	リーダーシップ・トレーニング・センターの実施について、青少年赤十字創設100周年事業にかかる取組について	3
6月29日	青少年赤十字全国指導者協議会総会・研修会	役員改選、グループディスカッション（コロナ禍での青少年赤十字活動等）	1

1月13日	役員会	事業中間報告、 次年度の事業計画協議	10
1月末	臨時評議員会・総会 (文書審議)	規約改正	373



6 国際活動

世界各地では、今もなお民族の対立や政治経済の混乱などに起因する様々な紛争、風水害、干ばつ、地震などの自然災害、新型コロナウイルスに代表される感染症が多発し、その犠牲者や被害者は依然として増加している傾向にある。

紛争や災害時の人道的活動は、赤十字活動の基本的使命であり、日本赤十字社は国際赤十字の一員として、各国の赤十字社・赤新月社、赤十字国際委員会、国際赤十字・赤新月社連盟と連携して「国際救援」と「開発協力」の活動を展開している。

静岡県支部では、第3ブロック支部（東海・北陸・長野の8県）と共同して国際活動に参加するとともに、NHK 海外たすけあいなど海外救援金を募集した。

（１）第3ブロック支部共同事業

日本赤十字社は、様々な紛争や自然災害などによって被害を受けた外国の人々のために救援活動に従事する国際救援要員を派遣し、被害国の赤十字社の組織運営強化に結びつく援助を行っている。

静岡県支部は、第3ブロック支部共同事業として、次の事業に参加した。

＜第3ブロック支部共同事業＞

事業名（対象地域）	事業費総額 (内、静岡県支部の支出額)	事業内容
東アフリカ地域保健強化事業 (ブルンジ、タンザニア、スーダン)	6,000 千円 (1,050 千円)	防災や疾病予防に関する知識の向上を目的として、アニメ映画の上映やラジオ放送を通じた住民の啓発活動を実施
レバノン・シリア難民等水衛生管理 支援事業（レバノン）	8,000 千円 (1,400 千円)	レバノンにあるシリア難民キャンプにおける水衛生環境改善を目的とした用品の配布、設備の敷設、学校での啓発活動を実施
アジア・大洋州給水・衛生災害対応 キット整備事業（アジア・大洋州）	6,000 千円 (1,050 千円)	アジア・大洋州地域の災害多発国への給水・衛生災害対応キットの整備とその運用研修を実施



▲住民のニーズを聴き取るボランティア（ブルンジ）



▲村民に衛生知識を伝えるボランティア（バングラデシュ）

(2) NHK海外たすけあい等海外救援金の募集

ア NHK海外たすけあい

日本赤十字社は昭和 58 年から NHK と共催し、アジア、アフリカ地域を中心とする開発途上国の災害救援、難民支援、保健衛生の向上などを目的とした NHK 海外たすけあいを実施している。

本年度は、新型コロナウイルスの影響によって街頭での募金協力への呼びかけを取り止めた一方で、NHK の放送や SNS などを通じてコロナ禍での人道支援を呼びかけた。



▲NHK 静岡放送局での受付

	第 39 回(令和 3 年)		第 38 回(令和 2 年)		第 37 回(令和元年)	
本県の概要	件数	金額(円)	件数	金額(円)	件数	金額(円)
	1,357	16,986,911	1,365	18,145,531	1,701	16,632,078
全体実績額	7 億 2,088 万円		7 億 5,038 万円		6 億 5,656 万円	
全体目標額	8 億 5,000 万円		8 億 5,000 万円		8 億 5,000 万円	

イ 海外救援金

海外で発生した武力紛争、自然災害や病気などにより困難な状況にある人々を支援するために海外救援金を募集した。

ウクライナでの戦闘が激化し、多くの人々が国内外で避難民となるなど、極めて深刻な人道危機が発生している。赤十字はその対応として、医療支援、食料や生活用品の配付、離散家族の再会支援などを行うとともに、救援金の受付を開始した。2 月からの受付であったが多くの救援金が寄せられた。

救援金名	受付件数	受付金額(円)
中東人道危機救援金	1	5,000
バングラデシュ南部避難民救援金	4	5,352
2021 年ハイチ地震救援金	4	2,350
アフガニスタン人道危機救援金	1	5,000
トンガ大洋州噴火津波救援金	18	438,567
ウクライナ人道危機救援金	146	5,581,766
無指定の国際救援金	1	20,001

(3) 国際救援・開発協力要員の確保

日本赤十字社は、海外の災害救援や保健衛生向上のために高い語学力と国際活動への参加意思を持ち、長期にわたり国際活動に従事できる人材(国際救援・開発協力要員)を派遣している。

静岡県支部で確保している要員は、3 人である。

（４）安否調査の実施

安否調査は、赤十字の国際活動のひとつでありジュネーブ条約などに基づいて武力紛争、自然災害、その他の事情により行方がわからなくなった家族等の調査を各国赤十字・赤新月社間で行うものである。

本年度は、静岡県支部への調査依頼はなかった。



7 社業振興事業

日本赤十字社の活動は、会員等の支援者が拠出する会費と一般からの寄付金によって運営されている。

本年度も、自治会や町内会等を通じた地域に密着した方法で活動資金募集を展開したほか、法人会員の増強などに努め、目標額 495 百万円を確保することができた。

(1) 赤十字運動

5月1日が日本赤十字社創立記念日、5月8日が赤十字の創始者アンリー・デュナン生誕を記念した世界赤十字デーであることから5月を赤十字運動月間としている。

より多くの県民に赤十字運動へ参加していただくため、地区区分関係者をはじめ、協賛委員会、奉仕団、有功会などの協力を得て県下一斉に会員等支援者の増強に努めた。

また、赤十字活動資金にご協力くださった方々に表彰基準によって、有功章等を贈呈した。

＜本年度の有功章及び感謝状受章者数（社資功労）＞

受章区分 地区区分名	金色有功章		銀色有功章		社長感謝状	
	個人	法人	個人	法人	個人	法人
三 島 市	1	1	0	1	3	2
沼 津 市	0	1	2	3	0	0
御 殿 場 市	2	1	0	0	0	0
富 土 宮 市	0	1	0	0	0	0
富 土 市	1	0	0	1	0	0
藤 枝 市	0	0	0	1	0	0
静 岡 市 清 水 区	2	0	0	0	0	1
静岡市葵・駿河区	0	1	0	4	0	1
焼 津 市	0	0	0	0	1	1
御 前 崎 市	0	2	0	6	0	0
掛 川 市	1	0	0	0	0	0
浜 松 市 中 区	0	0	0	0	1	0
浜 松 市 北 区	0	0	0	1	0	0
小 山 町	0	0	2	0	0	0
支 部 扱 い	18	4	14	4	6	3
支部扱い（施設）	1	1	0	0	1	1
計	26	12	18	21	12	9

(2) 法人会員の増強

活動資金の増強を図るためには、法人の協力を求めることが不可欠であるので、主に県下の法人を対象に赤十字の使命を伝え、活動資金の使途を明確にした 2 回のダイレクトメールを送付した。この結果、約 34 百万円（対前年 89.9%増）の協力を得ることができた。

(3) 活動資金募集の拡充（遺贈、相続財産による寄付の推進）

- ア 遺贈や相続財産の寄付を案内するパンフレットを、相続相談などの日頃の業務に使っていただくよう東海税理士会を通じて県内の同会所属会員に配付した。また、県弁護士会、県司法書士会、県行政書士会を訪問し、会員への配付及び周知を依頼した。さらに、県内公証役場にも送付し活用を依頼した。
- イ WEB サイトで PR を行うとともに、赤十字と「遺贈寄付に関する協定」を締結している信託銀行や都市銀行を訪問し、寄付勧奨に努めた。
- ウ 赤十字救急法等講習受講者への認定証の交付に際し、リーフレットや振込用紙を配付して活動資金への協力を働きかけた。

(4) 赤十字チャリティーボックスの設置

県内の地域赤十字奉仕団と JA 静岡中央会等の協力により、JA 関係機関、県内の商店、スーパーマーケット、ホテル、公民館など約 1,000 カ所に赤十字チャリティーボックスを設置している。

本年度は、約 115 万円の収納実績を得た。

(5) 令和3年度活動資金（社資収入）収納額

本年度の活動資金収納額は、495,476,458 円となった。

地区区分名	目標額(円)	活動資金収納額(円)	達成率(%)
下田市	2,962,000	3,220,000	108.7
伊東市	7,793,000	7,637,760	98.0
熱海市	3,877,000	2,616,749	67.5
伊豆市	4,858,000	5,301,614	109.1
伊豆の国市	5,884,000	6,145,000	104.4
三島市	12,987,000	13,575,550	104.5
沼津市	23,938,000	23,547,652	98.4
裾野市	6,186,000	7,170,500	115.9
御殿場市	9,665,000	9,288,124	96.1
富士宮市	16,365,000	19,667,060	120.2
富士市	30,032,000	31,224,802	104.0

地区区分名	目標額(円)	活動資金収納額(円)	達成率(%)
静岡市	74,700,000	75,086,715	100.5
(静岡市清水)	(29,179,000)	(32,152,431)	110.2
(静岡市葵・駿河)	(45,521,000)	(42,934,284)	94.3
焼津市	20,484,000	23,452,581	114.5
藤枝市	16,686,000	17,433,056	104.5
島田市	11,583,000	12,841,546	110.9
牧之原市	6,548,000	5,982,400	91.4
御前崎市	5,175,000	5,107,300	98.7
掛川市	14,882,000	17,012,550	114.3
菊川市	5,291,000	6,340,390	119.8
袋井市	10,054,000	12,129,332	120.6
磐田市	19,342,000	18,835,203	97.4
浜松市	96,335,000	99,189,394	103.0
(浜松市中区)	—	(26,807,334)	—
(浜松市東区)	—	(14,694,327)	—
(浜松市西区)	—	(13,564,884)	—
(浜松市南区)	—	(11,583,426)	—
(浜松市北区)	—	(11,212,092)	—
(浜松市浜北区)	—	(16,422,821)	—
(浜松市天竜区)	—	(4,904,510)	—
湖西市	7,327,000	8,751,807	119.4
東伊豆町	1,529,000	1,489,000	97.4
河津町	1,014,000	1,097,000	108.2
南伊豆町	1,103,000	1,125,300	102.0
松崎町	1,425,000	1,250,200	87.7
西伊豆町	1,397,000	1,960,000	140.3
函南町	4,175,000	4,008,500	96.0
清水町	4,735,000	4,758,905	100.5
長泉町	5,947,000	6,809,650	114.5
小山町	3,156,000	3,825,000	121.2
吉田町	3,693,000	3,912,875	106.0
川根本町	1,197,000	1,290,500	107.8
森町	2,675,000	2,868,409	107.2
地区区分計	445,000,000	465,952,424	104.7
支部扱い	50,000,000	29,524,034	59.0
合計	495,000,000	495,476,458	100.1

（６）支部創立１３０周年記念赤十字大会の開催

１１月５日（金）に静岡県コンベンションアーツセンターグランシップにおいて、日本赤十字社名誉副総裁である高円宮妃殿下ご臨席のもと関係者約５００人が参加し、赤十字事業に貢献された方々の顕彰と更なる赤十字活動の推進を期して静岡県支部創立１３０周年記念赤十字大会を開催した。

第一部の式典では、妃殿下から赤十字への活動資金の協力やボランティア活動に貢献された方々に対し有功章のご授与があったほか、おことばを賜った。また社長感謝状、支部長表彰状・感謝状を代表者に贈呈したほか、熱海市伊豆山地区土砂災害の救護活動に従事した職員が体験発表を行った。

第二部の記念コンサートでは、青少年赤十字加盟校の英和女学院ハンドベルクワイア、静岡県立静岡東高等学校マンドリン部による演奏が披露された。

式典に先立ち名誉副総裁高円宮妃殿下は、静岡市立長田東小学校をご訪問され、青少年赤十字の防災教育授業をご視察された。



▲おことばを述べられる高円宮妃殿下

＜妃殿下おことば＞

本日ここに、日本赤十字社静岡県支部創立百三十周年記念赤十字大会が開催され、日頃より赤十字活動に深く携わっておられるみなさまとお会いできますことを大変うれしく思います。

赤十字が今日まで続けてこられた世界各地における人道、博愛の精神に基づく活動は、多くの人々の支えなくしては成り立つものではございません。

また我が国においても、日本赤十字社が国際的な強い絆のもと、その使命を果たしてきたことは、本日ここにご参会のみなさまのご尽力の賜であると、深く感謝申し上げます。

昨年来、新型コロナウイルス感染症の感染拡大は日本のみならず、世界的に政治、経済、そして人々の生活に深刻な影響を与え続けて参りました。ここに感染症により命を落とされた方々を悼むとともに、様々なかたちで苦しんでおられる方にお見舞いを申し上げます。

このような厳しい環境下において、日本赤十字社は全国の赤十字病院による多数のコロナ感染者の受け入れや、ワクチン接種のために医療スタッフを派遣する活動、そして感染症に不安を

抱える国民のみなさまのメンタルケアにつながる活動などの展開を通して、赤十字の「苦しんでいる人を救う」という使命を果たしてきたことを誠に心強く思います。

今日、世界には、相次ぐ自然災害や紛争によって人道的な支援を必要としている人々が数多くおります。国内においても、地震や豪雨などの自然災害による人々への脅威は避けられるものではありません。

近年、我が国を襲う自然災害が激甚化していると言われるなか、七月には熱海市で大規模土砂災害が発生し、多くの方が被災されました。亡くなられた方々のご冥福を祈り、被災されたみなさまに心よりお見舞い申し上げます。

このような状況の中、赤十字に寄せられる期待と要請はますます高まるものと思われます。みなさまが本日の大会を契機として、赤十字の尊い使命に改めて思いを起こされ、互いに手を携えて、より一層充実した活動を進められるとともに、その精神が多くの人々に理解され、赤十字運動に参加する人々の輪がさらに広がっていくことを願って、式典に寄せることばといたします。

（７）全国赤十字大会への参加

5月20日に予定されていた令和3年全国赤十字大会は、新型コロナウイルスの感染拡大によって中止となった。

（８）日本赤十字社静岡県支部協賛委員会

自治会、町内会あるいは奉仕団の方々には、活動資金の募集等様々な協力をいただいている。市町の自治会、町内会の役員で構成されている静岡県支部協賛委員会が4月に開催され、本年度も赤十字事業の周知や会員等の支援者増強を推進して行くことが決定された。

◆日本赤十字社静岡県支部協賛委員会役員

会 長 榊原 昭雄

副会長 村上 勇夫 小林 一男 山下 聖秋

開催日	内 容
4月20日	事業計画・赤十字運動の説明、活動資金募集協力依頼等
7月	役員改選（文書審議）

(9) 日本赤十字社静岡県有功会への支援

有功章受章者で組織している静岡県有功会は、赤十字事業の支援等を目的に結成された。以来、赤十字の人道・博愛精神の普及や青少年赤十字の支援などを行う協力団体としての活動を続けており、令和4年3月末現在の会員数は437人となっている。

本年度は新型コロナウイルスの状況から、総会を文書審議とした。

◆日本赤十字社静岡県有功会役員

会 長 片川 昭壽

副会長 池谷 滋雄 菅沼 成欣 山本 良一

(10) 赤十字思想の普及（広報活動）

赤十字の活動を推進するためには、県民の赤十字に対する理解と支援が不可欠であり、事業内容や活動資金の使途をわかりやすく説明することが求められているため「活動報告とお礼」に留意した広報を展開している。

本年度は、特に「熱海市の土砂災害における救護活動」や「新型コロナウイルスに対する赤十字活動」を広報した。媒体としては、広報紙やWebページの他、YouTubeにおいて動画配信も行った。



▲活動資金募集チラシと支部広報紙「赤十字しずおか」

ア 活動資金募集チラシ

コロナ下においても「いのちを守る」災害救護、赤十字講習を続けることを訴求したチラシ約81万部を作製し、自治会・町内会を通じて各世帯へ回覧または配布した。

イ 静岡県支部広報紙

赤十字活動をわかりやすく地域住民に伝えることを目的とした広報紙「赤十字しずおか」を4、9、12月に発行し、自治会や図書館、行政窓口等に配布（発行部数計約20万部）した。

ウ 赤十字運動用ステッカー

商業組合静岡県タクシー協会及び静岡県個人タクシー協会の協力を得て、ステッカー4,700枚を県内のタクシーに貼付した。



▲赤十字運動用ステッカー

エ 赤十字 NEWS

本社発行の「赤十字NEWS」に毎月記事を投稿するとともに、関係者に配付（約 3 万 9 千部）した。

オ Web サイト

活動資金募集への理解や協力、各種講習、災害救護活動、新型コロナウイルス感染症に対する活動紹介等を発信した。

カ YouTube

赤十字活動の周知や普及啓発等を目的に、YouTube において赤十字講習に係る動画を公開した。



8 評議員会

静岡県支部では、日本赤十字社定款第 71 条に基づき、事業報告（収支決算を含む）及び事業計画（収支予算を含む）を評議員会に諮りながら各事業を推進している。

（１）前期評議員会

6月14日、静岡県産業経済会館において開催。次の議案を提出し、原案どおり承認された。

第 1 号議案：令和 2 年度事業報告及び歳入歳出決算について

また、次の事項について報告を行った。

伊豆赤十字病院 介護医療院の開設について

（２）後期評議員会

1 月、文書審議によって開催。次の議案を提出し、原案どおり承認された。

第 1 号議案：令和 4 年度事業計画について

第 2 号議案：令和 4 年度歳入歳出予算について

第 3 号議案：日本赤十字社静岡県支部副支部長及び監査委員並びに
日本赤十字社代議員の選出について



▲評議員会（前期）

9 一般会計決算概要

(1) 歳 入

(単位：円)

科目	予 算 現 額			決算額	予算現額に 比し増減
	当初予算額	補正予算額	計		
社資収入	495,000,000	0	495,000,000	495,549,458	549,458
一般社資収入	466,000,000	0	466,000,000	467,717,882	1,717,882
法人社資収入	29,000,000	0	29,000,000	27,831,576	△1,168,424
委託金等収入	0	0	0	724,226	724,226
補助金及び交付金収入	708,000	0	708,000	4,055,389	3,347,389
本社交付金収入	708,000	0	708,000	4,055,389	3,347,389
災害義援金預り金収入	0	264,073,000	264,073,000	264,072,066	△934
繰入金収入	6,372,000	12,632,000	19,004,000	19,003,084	△916
資金繰入金収入	6,372,000	12,632,000	19,004,000	19,003,084	△916
事業準備積立金繰入金収入	0	0	0	0	0
資産収入	276,000	0	276,000	276,000	0
雑収入	7,068,000	0	7,068,000	4,230,049	△2,837,951
利子収入	2,000	0	2,000	1,402	△598
負担金収入	6,306,000	0	6,306,000	2,236,195	△4,069,805
雑収入	760,000	0	760,000	1,992,452	1,232,452
前年度繰越金	68,716,000	0	68,716,000	86,820,878	18,104,878
歳入合計	578,140,000	276,705,000	854,845,000	874,731,150	19,886,150

(2) 歳 出

(単位：円)

科目	予 算 現 額				決算額	不用額
	当初予算額	補正予算額	流用増減額	計		
災害救護事業費	55,224,000	256,073,000	0	311,297,000	302,648,509	8,648,491
災害救護指導事業費	21,676,000	△4,000,000	0	17,676,000	14,476,765	3,199,235
災害救護装備費	23,051,000	△4,000,000	0	19,051,000	15,098,893	3,952,107
非常災害救援物資整備費	0	0	0	0	0	0
災害義援金送付金	0	264,073,000	0	264,073,000	264,072,066	934
救護看護師指導養成費	10,497,000	0	0	10,497,000	9,000,785	1,496,215
社会活動費	105,070,000	△21,368,000	0	83,702,000	69,561,194	14,140,806
救急法等普及費	60,664,000	△13,368,000	0	47,296,000	41,105,731	6,190,269
奉仕団活動費	16,866,000	△3,000,000	0	13,866,000	10,126,319	3,739,681
青少年赤十字活動費	19,069,000	△5,000,000	0	14,069,000	10,651,858	3,417,142
医療事業費	8,295,000	0	0	8,295,000	7,677,146	617,854
血液事業費	176,000	0	0	176,000	140	175,860
国際活動費	3,762,000	0	0	3,762,000	3,573,000	189,000
指定事業地方振興費	24,000,000	0	73,000	24,073,000	24,072,516	484
地区区分交付金支出	77,322,000	0	8,000	77,330,000	77,328,717	1,283
社業振興費	69,719,000	△13,000,000	0	56,719,000	50,032,007	6,686,993
社業振興費	36,665,000	△7,000,000	0	29,665,000	27,232,754	2,432,246
広報活動費	33,054,000	△6,000,000	0	27,054,000	22,799,253	4,254,747
基盤整備交付金・補助金支出	8,600,000	0	0	8,600,000	8,100,000	500,000
積立金支出	51,670,000	55,000,000	0	106,670,000	106,233,056	436,944
資金積立金支出	40,000,000	55,000,000	0	95,000,000	95,000,000	0
退職給与資金特別会計積立金支出	11,670,000	0	0	11,670,000	11,233,056	436,944
総務管理費	81,437,000	0	0	81,437,000	74,408,044	7,028,956
評議員会等諸費	659,000	0	0	659,000	240,884	418,116
総務管理費	80,240,000	0	0	80,240,000	73,655,074	6,584,926
監査費	538,000	0	0	538,000	512,086	25,914
資産取得及び資産管理費	28,336,000	0	0	28,336,000	19,327,827	9,008,173
本社送納金支出	69,000,000	0	73,000	69,073,000	69,072,618	382
予備費	4,000,000	0	△154,000	3,846,000	0	3,846,000
歳出合計	578,140,000	276,705,000	0	854,845,000	804,357,488	50,487,512

歳 入 合 計 874,731,150 円
 歳 出 合 計 804,357,488 円
 歳入歳出差引残額 70,373,662 円 (翌年度繰越額)

(3) 資金増減明細表

(単位：円)

資金別		前年度末 現在額	令和 3 年度			令和 3 年度 積立額	令和 3 年度末 現在額
			増	減	差引額 (A)－(B)		
			利子収入 (A)	元本繰出額 (B)			
災害等資金		1, 240, 860, 563	1, 781, 310	0	1, 781, 310	55, 000, 000	1, 297, 641, 873
国際救護活動資金	国際救護活動資金 (社資収入)	42, 491, 651	422	0	422	0	42, 492, 073
	支部国際活動基金 (個人住民税控除適用)	11, 992, 257	118	0	118	0	11, 992, 375
	支部国際活動基金 (個人住民税控除 適用海外救援金)	0	0	73, 000	△73, 000	73, 000	0
施設整備準備資金		999, 616, 230	3, 686, 938	0	3, 686, 938	40, 000, 000	1, 043, 303, 168
特別退職金積立留保金		18, 929, 873	211	18, 930, 084	△18, 929, 873	0	0
事業準備積立金		0	0	0	0	0	0
合 計		2, 313, 890, 574	5, 468, 999	19, 003, 084	△13, 534, 085	95, 073, 000	2, 395, 429, 489

Ⅱ 医療事業・医療施設特別会計決算概要

県下 5 つの赤十字病院において、平時の一般診療に加えて災害時には救護活動にあたるなど赤十字の使命を果たすべく活動している。それぞれの病院が特色を生かして救急医療や地域の医療ニーズに取り組むほか、高齢社会へ対応する療養病床や在宅での療養、介護を支援するための訪問看護ステーションを設けるなど、安定的な医療の提供と福祉の増進に努めている。

昨年度に引き続き、新型コロナウイルスへの対策として、静岡、浜松、裾野においては、状況により病棟を感染区域と一般区域に分けて患者を受け入れた。また、伊豆、引佐においてもコロナ下における感染対策を徹底しながら病院運営を行う、極めて厳しい状況下で地域医療を担う公的病院としての役割を果たした。

1 静岡赤十字病院

(1) 診療状況の概要

病床数		職員数				入院患者数			外来患者数		
許可 病床数	実働 病床数	医師	看護師	その他	計	延数	1日 平均	1日平均 前年比	延数	1日 平均	1日平均 前年比
床	床	人	人	人	人	人	人	%	人	人	%
465	465	136.9	504.0	358.2	999.1	146,303	400.8	98.8	197,866	817.6	107.1

(2) 訪問看護ステーションの状況

名称	利用者数	訪問看護延回数	従事者数	サービス内容
しずおか日赤 訪問看護ステーション	人 198	回 5,582	人 8.8	訪問看護、訪問リハビリ

(3) 経営状況

静岡赤十字病院第4次中期経営計画の目標である「断らない病院」「地域から信頼される病院」「患者さんのニーズを最優先し、満足度の高い医療を提供する病院」を達成した上で、医業収支を改善し、病院経営の健全化を図るため、以下の事項を推進した。

ア 診療機能の整備（医師確保）

医師確保のため、積極的な大学医局訪問等を継続した結果、眼科2名、脳神経外科1名、耳鼻咽喉科1名、泌尿器科1名が増員となり、医師が不足していた診療科の体制が強化された。

イ 看護体制の整備

本年度の当院における就職説明会は、感染対策の観点からオンラインで開催し、看護師確保に努めた。また、看護師の知識と技術向上のため資格取得を推進しており、現在、専門看護師は2名、認定看護師は14名を有している。加えて、医師の指導のもと、自らの判断で一定の診療補助行為を行うことができる特定行為研修については、本社の特定行為研修協力施設として登録された。1名修了1名が継続受講中である。

ウ 地域医療連携の推進

静岡市静岡医師会との病診連携システム・開放型病床運営協議会は、感染拡大防止のためオンライン開催とし、意見交換を行った。医科歯科連携を強化する観点から、歯科医師会と協働し、地域における医科歯科連携の推進を図るための事業として、動画(DVD)を作成し、開業医等に配布した。また、特定の疾患を対象としたイーツーネット医療連携を推進した。紹介率は73.5%、逆紹介率は115.0%であった。

エ 救命救急医療の充実

本年度も感染症専用病棟を設けたため、救急車の搬入に制限を設けた時期があったものの救命救急センター取扱実患者数は10,646人(令和2年10,935人)であり、うち入院が3,897人(令和2年度3,929人)、救急車実搬入台数は4,567台(令和2年度4,668台)であり、地域の救急医療の要としての機能を果たした。

オ 効率的な病床運営

本年度も感染症専用病棟を設けたため、病床の利用が一部制限されたが、医師への病床情報等を積極的に発信し、病床をより効率的に運用することで、平均在院日数の短縮を図り、断らない病院を推進した。また、病床稼働率の維持のため、新入院患者の確保に努めた。

カ 費用の削減

診療材料の共同購入、放射線機器の共同保守を継続実施し、費用の削減に努めた。

キ 安心・安全な医療提供体制の強化

年2回実施する全職員対象の医療に係る安全管理と感染管理の研修は、多くの職員の参加を得た。平成31年4月に認定された病院機能評価について、認定後3年目の「認定期間中の確認」を実施し、継続した医療の質の改善に取り組んだ。

ク 初期臨床研修医教育

新たに14名の初期臨床研修医を迎え、計27名の研修医教育を行い、将来の医療を担う医師の育成に努めた。

ケ 医療機器の整備

全身用X線CT診断装置、超音波画像診断装置等の更新を行った。

コ 満足度向上活動

患者満足度の向上を図るため、入院患者、外来患者対象の「患者アンケート」を実施し、患者サービスにつなげるよう委員会で検討した。

サ しずおか日赤訪問看護ステーション

地域の医療ニーズにこたえるため、訪問看護ステーションにおいて、主に市内の利用者を看護師等が訪れ、日常生活のケアやリハビリなどを行った。また、産科病棟との連携を強化し、助産師が産後うつや新生児を対象とした訪問による母子支援を行った。

(4) 決算概要

収益の収入および支出						(単位:円)
科 目	予算現額			決算額	令和2年度 決算額	
	当初予算額	補正予算額	計			
病院収益	15,005,144,000	△ 1,000,000	15,004,144,000	17,302,533,295	15,888,828,564	
医業収益	14,492,840,000	0	14,492,840,000	15,229,049,030	14,496,992,172	
医業外収益	462,535,000	0	462,535,000	2,009,691,704	1,341,338,087	
医療社会事業収益	1,229,000	△ 1,000,000	229,000	336,000	386,511	
付帯事業収益	48,540,000	0	48,540,000	62,098,822	48,373,847	
特別利益	0	0	0	1,357,739	1,737,947	
科 目	予算現額			決算額	令和2年度 決算額	
	当初予算額	補正予算額	計			
病院費用	14,910,114,000	178,000,000	0	15,088,114,000	15,065,360,622	14,662,567,414
医業費用	14,539,957,000	165,000,000	30,000,000	14,734,957,000	14,731,056,120	14,322,088,529
医業外費用	139,331,000	0	0	139,331,000	123,309,210	138,287,977
医療奉仕費用	126,021,000	0	0	126,021,000	125,745,137	126,459,644
付帯事業費用	70,351,000	0	0	70,351,000	68,288,598	71,199,437
特別損失	0	4,500,000	0	4,500,000	4,086,198	806,474
法人税等	4,454,000	8,500,000	0	12,954,000	12,875,359	3,725,353
予備費	30,000,000	0	△ 30,000,000	0	0	0
収支差引額	95,030,000	△ 179,000,000	0	△ 83,970,000	2,237,172,673	1,226,261,150

資本的収入および支出						(単位:円)
科 目	予算現額				決算額	令和2年度 決算額
	当初予算額	補正予算額	前年度繰越事業費充当額	計		
病院収入	1,265,229,000	195,000,000	0	1,460,229,000	1,374,061,629	1,149,987,710
固定負債	86,760,000	132,000,000	0	218,760,000	202,794,597	126,974,800
その他資本収入	1,178,469,000	63,000,000	0	1,241,469,000	1,171,267,032	1,023,012,910
科 目	予算現額				決算額	令和2年度 決算額
	当初予算額	補正予算額	前年度事業繰越額	計		
病院費	1,265,229,000	195,000,000	0	1,460,229,000	1,374,061,629	1,149,987,710
固定資産	295,620,000	195,000,000	0	490,620,000	418,315,571	239,806,375
借入金等償還	969,609,000	0	0	969,609,000	955,746,058	910,181,335
収支差引額	0	0	0	0	0	0

利益剰余金					(単位:円)
当期末処分利益(損失)A(a+b)	前期繰越利益(損失) a	当期純利益(損失) b	利益積立金B	利益剰余金合計(A+B)	
△ 346,636,371	△ 2,583,809,044	2,237,172,673	0	△ 346,636,371	

2 浜松赤十字病院

(1) 診療状況の概要

病床数		職員数				入院患者数			外来患者数		
許可 病床数	実働 病床数	医師	看護師	その他	計	延 数	1日 平均	1日平均 前年比	延 数	1日 平均	1日平均 前年比
床	床	人	人	人	人	人	人	%	人	人	%
312	312	61.6	269.3	179.6	510.5	93,903	257.3	100.0	100,771	416.4	102.4

(2) 訪問看護ステーションの状況

名称	利用者数	訪問看護延回数	従事者数	サービス内容
日赤訪問看護ステーション	人 144	回 6,690	人 9.1	訪問看護、訪問リハビリ、 居宅介護支援

(3) 経営状況

浜松市北部地域の中核病院として救急医療を充実させ、地域医療支援病院、災害拠点病院として、地域住民や近隣医師会、行政などの期待に応えるべく、以下の項目に重点を置き病院運営を行った。

ア 診療機能、救急医療及び災害救護体制の充実

二次救急医療機関として救急医療体制や診療機能の充実を図るとともに、地域包括ケアシステムの推進に寄与するため、外来受診から入院、退院までの医療・療養を一貫してサポートし、患者サービスの向上を図ることで、患者の在宅復帰支援を積極的に行った。

また、当院の総合防災訓練において、浜松市との「災害時の医療救護活動に関する協定」に基づく「病院前救護所」を設置して行政や医師会と連絡調整に関する検証を行うとともに、新型コロナウイルスの流行を想定した訓練にも取り組み救護体制の充実を図った。

新型コロナウイルスに対しては、静岡県から重点医療機関の指定を受けて受入病床の拡大を行うとともに、職員一丸となって院内発生・感染防止に努め、年間を通じてクラスターを起こす事もなく一般診療を継続した。

イ 医療従事者の確保・養成

医師確保のために浜松医科大学、慶應義塾大学、藤田医科大学の各医局を訪問し、人員不足の診療科を中心とした派遣要請を行い、その結果、循環器内科、整形外科、小児科で各1名の増員となった。また、基幹型臨床研修病院として、ホームページによる募集、医学生に対する病院説明会へのブース出展や病院見学会などを実施して、新たに臨床研修医5名を迎えた。

看護師の安定確保と教育のために、看護大学や看護専門学校への訪問や実習生の受け入れの他、奨学生の募集やホームページを活用した。教育研修においては、認定看護師や看護

師の特定行為研修などのスキルアップに対する支援を充実させ、看護の質向上に取り組んだ。

ウ 病院経営の生産性向上

収入増加対策として診療所等との更なる連携強化を図ることで、紹介患者の増加に努めるとともに、救急医療体制を強化し、救急搬送受入件数を増やすことで新入院患者の獲得や診療単価の向上に努めた。

院内健診事業を充実させるため、人間ドック検査項目の見直しやオプション検査の充実、内視鏡検査や保健指導の充実を図り、利用者数の増加に取り組んだ。

また、診療材料の共同購入や放射線機器の共同保守等で費用の削減に努めた。

エ 安心安全な医療体制の強化

全職員を対象に医療安全と感染管理に関するeラーニングを徹底し、安心安全な医療体制に努めた。また、5S・QC活動を通して職場環境や業務を見直すことにより、生産性と医療の質の向上を図り、安全な医療の提供に努めた。

オ 広報活動の強化

リクルートページを中心にホームページの充実を図り、病院情報の発信や医療スタッフの確保に努めた。また、浜北警察署との包括的防犯協定を継続し、交通事故や特殊詐欺による被害を未然に防ぐため、当院を利用する地域住民に事件や詐欺に遭わないように注意を呼びかける内容の広報活動を行った。

(4) 訪問看護ステーションの運営

自宅で最後まで寄り添いたいという家族の希望に応じるため、当院の訪問診療医師との連携により在宅看取りを強化した。在宅での看取り等の緊急時対応やカテーテルの管理など医療的なニーズへの対応強化に取り組んだ。

(5) 施設等整備

CT装置、超音波画像診断装置4式、X線一般撮影装置1式、外科用X線撮影装置1式、化学発光免疫測定装置（抗原定量検査）、人工呼吸器2式、臨床用ポリグラフ、全自動溶解装置（透析装置）、脳波計等を整備した。

(6) 決算概要

収益の収入および支出

(単位:円)

科目	予算現額			決算額	令和2年度 決算額
	当初予算額	補正予算額	計		
病院収益	7,336,151,000	0	7,336,151,000	8,347,731,000	7,514,133,202
医業収益	6,973,904,000	0	6,973,904,000	7,318,778,379	6,836,895,330
医業外収益	282,331,000	0	282,331,000	953,398,443	592,771,644
医療社会事業収益	0	0	0	0	0
付帯事業収益	79,796,000	0	79,796,000	70,716,205	81,966,315
特別利益	120,000	0	120,000	4,837,973	2,499,913
科目	予算現額				令和2年度 決算額
	当初予算額	補正予算額	流用増減	計	
病院費用	7,525,252,000	227,884,000	0	7,753,136,000	7,423,499,189
医業費用	7,362,977,000	215,000,000	0	7,577,977,000	7,282,333,453
医業外費用	61,355,000	9,384,000	0	70,739,000	68,881,443
医療奉仕費用	31,799,000	0	0	31,799,000	12,048,871
付帯事業費用	64,269,000	3,500,000	0	67,769,000	57,989,436
特別損失	2,000,000	0	0	2,000,000	795,477
法人税等	2,852,000	0	0	2,852,000	1,450,509
予備費	0	0	0	0	0
収支差引額	△ 189,101,000	△ 227,884,000	0	△ 416,985,000	924,231,811

資本的収入および支出

(単位:円)

科目	予算現額				決算額	令和2年度 決算額
	当初予算額	補正予算額	前年度繰越事業費充当額	計		
病院収入	496,545,000	163,775,000	0	660,320,000	657,068,076	673,888,507
固定負債	0	159,375,000	0	159,375,000	169,402,000	163,828,750
その他資本収入	496,545,000	4,400,000	0	500,945,000	487,666,076	510,059,757
科目	予算現額				決算額	令和2年度 決算額
	当初予算額	補正予算額	前年度事業費繰越額	計		
病院費	496,545,000	163,775,000	0	660,320,000	657,068,076	673,888,507
固定資産	64,311,000	163,775,000	0	228,086,000	227,467,604	230,067,780
借入金等償還	432,234,000	0	0	432,234,000	429,600,472	443,820,727
収支差引額	0	0	0	0	0	0

利益剰余金

(単位:円)

当期末処分利益(損失)A(a+b)	前期繰越利益(損失) a	当期純利益(損失) b	利益積立金B	利益剰余金合計(A+B)
△ 8,489,472,500	△ 9,413,704,311	924,231,811	0	△ 8,489,472,500

3 伊豆赤十字病院

(1) 診療状況の概要

病床数		職員数				入院患者数			外来患者数		
許可 病床数	実働 病床数	医師	看護師	その他	計	延数	1日 平均	1日平均 前年比	延数	1日 平均	1日平均 前年比
床	床	人	人	人	人	人	人	%	人	人	%
94	94	8.6	57.3	69.2	135.1	22,194	60.8	92.7	41,825	172.8	99.8

(2) 付帯施設の概要

ア 介護医療院（介護老人保健施設）の概要

職員数			利用者数			
看護師	その他	計	入所 介護医療院 96 人(介護老人保健施設 100 人)			居宅介護
			延数	1日平均	1日平均前年比	延数
17.5 人	40.1 人	57.6 人	28,569 (2,401)	85.3 (80.0)	— (101.5)	381 人
サービス内容			入所療養(入所療養介護、短期入所療養介護、居宅介護支援)			

イ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の概要

利用者数					
通い(18人)			泊り(9人)		
延数	1日平均	1日平均前年比	延数	1日平均	1日平均前年比
4,179 人	13.3 人	149.4 %	1,624 人	6.7 人	142.6 %
通い、泊り、訪問介護、訪問看護					

ウ 訪問看護ステーションの概要

名称	利用者数	訪問看護延回数	従事者数	サービス内容
訪問看護ステーション 伊豆日赤	1,409 人	6,677 回	9.4 人	訪問看護、訪問リハビリ

(3) 経営状況

急性期医療をはじめ、超高齢化地域における高齢者の慢性疾患を中心とした医療、介護のほか訪問診療、訪問看護など地域のニーズである在宅医療を担っている。

入院患者数は減少したが、療養病床から地域包括ケア病床への転換を進め、診療単価が上がり収益は微増となった。一方、外来患者数も減少したが、紹介患者や救急患者が増加し診療単価が上がり収益は微増となった。また、保険予防活動収益は伊豆市の新型コロナワクチン接種事業受託により大幅な増収となった。付帯施設は介護医療院の開設により利用者数が増加して増収とな

った。

収支は新型コロナワクチン接種、本社退職給付引当金戻入（大幅な減額）により黒字となった。

ア 診療体制

常勤医師6名体制となり、非常勤医師と合わせて外来・当直の診療体制を維持し入院・外来診療に対応した。在宅医療推進のため訪問診療を積極的に実施した。また、医師の負担軽減のため、「特定行為研修」看護師を外来に配置し、在宅医療を支える看護師の体制を築いた。

イ 地域包括ケア病床への転換

地域包括ケアシステムを構築し継続的に運用できる体制を作るため、9月に療養病床5床を地域包括ケア病床へ転換した。また、毎朝のベッドコントロール会議によって、病床の有効利用、退院支援等における情報共有を図ることで、病院、介護医療院、看多機、訪問看護の効率的な利用につなげた。

ウ 新型コロナウイルスに関する対応

院内では、かかりつけ患者に対する発熱外来診療体制を整備するとともに、継続的に新型コロナウイルスの感染対策を実施して、安心して来院できる環境整備を図った。

また、伊豆市が行う新型コロナワクチンの集団接種に対し医師、看護師、事務職員を派遣し、行政の業務支援に積極的に努めた。

(4) 付帯事業施設の運営

ア 介護医療院

5月に介護老人保健施設から医療機能と生活施設としての機能を兼ね備えた介護医療院へ転換した。これにより長期療養のための医療と日常生活上の支援を一体的に提供したことで、利用者が増加し増収となった。

イ 看護小規模多機能型居宅介護事業所（レクロス小立野）

利用者は登録者が増えたため、2月に定員24人を29人へ拡大、通い15人を18人へ拡大の申請を行った。平均介護度は低くなったが、利用者確保により増収となった。利用者の住み慣れた地域で最期まで自分らしい生活を続けたい気持ちや介護する家族の思いにこたえていく介護サービスを行った。

ウ 訪問看護ステーション（訪問看護ステーション伊豆日赤）

利用者数が大幅に増加したことで増収となった。更に病院診療との連携を強化し、利用者サービスの向上のため10月に市内土肥地区に出張所を開設した。

(5) 決算概要

収益的收入および支出

(単位:円)

科 目	予算現額			決算額	令和2年度 決算額	
	当初予算額	補正予算額	計			
病院収益	1,988,242,000	0	1,988,242,000	2,328,867,221	2,069,208,259	
医業収益	1,292,543,000	0	1,292,543,000	1,476,831,373	1,320,592,498	
医業外収益	199,077,000	0	199,077,000	274,155,884	252,269,045	
医療社会事業収益	2,542,000	0	2,542,000	3,550,526	5,481,812	
付帯事業収益	494,080,000	0	494,080,000	574,148,461	490,604,906	
特別利益	0	0	0	180,977	259,998	
科 目	予算現額			決算額	令和2年度 決算額	
	当初予算額	補正予算額	流用増減額			計
病院費用	2,304,322,000	25,421,000	0	2,329,743,000	2,005,715,467	2,073,386,222
医業費用	1,708,052,000	0	0	1,708,052,000	1,432,668,966	1,504,245,431
医業外費用	7,736,000	3,000,000	0	10,736,000	10,189,501	10,839,780
医療奉仕費用	2,816,000	0	0	2,816,000	961,538	3,096,040
付帯事業費用	580,718,000	15,000,000	0	595,718,000	559,149,010	547,120,076
特別損失	5,000,000	6,000,000	0	11,000,000	1,325,548	8,084,895
法人税等	0	1,421,000	0	1,421,000	1,420,904	0
予備費	0	0	0	0	0	0
収支差引額	△ 316,080,000	△ 25,421,000	0	△ 341,501,000	323,151,754	△ 4,177,963

資本的收入および支出

(単位:円)

科 目	予算現額				決算額	令和2年度 決算額
	当初予算額	補正予算額	前年度繰越事業費充当額	計		
病院収入	141,244,000	21,195,000	0	162,439,000	106,436,044	223,474,220
固定負債	92,043,000	6,300,000	0	98,343,000	62,902,000	196,174,252
その他資本収入	49,201,000	14,895,000	0	64,096,000	43,534,044	27,299,968
科 目	予算現額				決算額	令和2年度 決算額
	当初予算額	補正予算額	前年度事業繰越額	計		
病院費	141,244,000	21,195,000	0	162,439,000	106,436,044	223,474,220
固定資産	99,341,000	15,000,000	0	114,341,000	58,338,820	191,460,330
借入金等償還	41,903,000	6,195,000	0	48,098,000	48,097,224	32,013,890
収支差引額	0	0	0	0	0	0

利益剰余金

(単位:円)

当期末処分利益(損失)A(a+b)	前期繰越利益(損失) a	当期純利益(損失) b	利益積立金B	利益剰余金合計(A+B)
△ 1,167,059,989	△ 1,490,211,743	323,151,754	0	△ 1,167,059,989

4 引佐赤十字病院

(1) 診療状況の概要

病床数		職員数				入院患者数			外来患者数		
許可 病床数	実働 病床数	医師	看護師	その他	計	延数	1日 平均	1日平均 前年比	延数	1日 平均	1日平均 前年比
床	床	人	人	人	人	人	人	%	人	人	%
99	99	4.1	33.9	38.9	76.9	31,392	86.0	98.2	5,432	22.5	97.8

(2) 経営状況

全病床が医療療養病床であり、浜松市北区を中心とした地域の慢性期医療を担う医療療養型病院である。医療療養型病院は急性期病院と比べて、患者1人1日当たりの入院診療収益が極めて低く収益向上のためには、医療の必要性が高い医療区分2、3に該当する患者の確保と高い水準での病床稼働率の維持が必要とされる。

診療体制は内科と整形外科であるが、昨年度から続く新型コロナウイルス流行の影響などもあって、入院、外来ともに患者が減少している。特に、ここ数年は整形外科の入院患者が減少傾向であり、診療収益減少の原因となっている。

一方、施設、設備の老朽化に伴う経費が増加しているため、従来にも増して厳しい経営状況が続いている。

ア 診療体制の整備

- (ア) 安心、安全な医療を提供するため、職員の学会等への参加を推奨し、職員研修会を定期的に開催するなどして知識と技術の向上を図った。
- (イ) 発熱者外来を設置して、新型コロナウイルス患者等の対応に努めた。
- (ウ) 新型コロナウイルス回復患者の受け入れ後方支援病院として、個室2床を設置した。
- (エ) 新型コロナウイルス対策のため、入院患者への面会は地域の感染状況を踏まえて制限したが、ビデオ面会を実施するなどして、患者や患者家族の心に寄り添ったサービスの提供に努めた。

イ 入院患者の確保

1日平均入院患者数90.0人（病床稼働率90.9%）を目標に、急性期病院からの紹介患者を中心に入院患者の確保に努めたが、近隣の急性期病院が新型コロナウイルス重点医療機関であり一般診療へ影響したため、当院への紹介患者が減少する時期があった。1日平均入院患者数は86.0人（病床稼働率86.9%）となり目標には至らなかった。

また、患者1人1日当たりの入院診療収益は、医療区分2、3に該当する患者の増加に伴い昨年度と比べて3.1%向上した。

ウ 外来患者の確保

外来診療は入院患者確保の観点からも重要であり、1 日平均外来患者数 23.0 人を目標に患者確保に努めたが、新型コロナウイルスの感染対策として、受診間隔を延長させるなどしたこともあって、1 日平均外来患者数は 22.5 人となり目標を下回る結果となった。

エ 地域連携の強化

近隣の急性期病院、地元医師会、診療所への営業活動の強化を図り、紹介による入院患者の安定確保に努めた。

オ 費用削減対策

診療材料、光熱水費等の経費削減に努めたほか、病院規模と診療機能に応じた適正な人員配置を図り、賞与支給率を抑制して費用の大半を占める人件費の削減に努めた。

カ 医療事故・感染防止対策の取り組み

医療安全推進室が中心となって、医療事故の原因究明、再発防止策の検討、職員への周知徹底を図り、全職員を対象とした研修会を開催するなどして医療安全の理解、推進に努めた。

また、感染対策部会メンバーによる定期的な院内ラウンドにより、各職場の感染対策を評価し、改善することで院内感染の防止を図った。

新型コロナウイルスへの対応としては、マスク、ガウン、手袋などの衛生資材の安定確保に努め、防護服の着脱訓練を繰り返し行うなどして職員一丸となって感染対策に取り組んだ。

（３）介護事業施設の運営

併設の通所介護施設、居宅介護事業所については、サービスの充実、スタッフの育成を図るとともに、パンフレットの作成及びホームページの更新など広報を強化して利用者の確保に努めた。

また、新型コロナウイルス対策として、利用者及び職員のマスクの着用、手指消毒等の徹底はもとより、利用者の送迎車両を増車するなどして密にならない環境を整備した。

(4) 決算概要

収益の収入および支出

(単位:円)

科 目	予算現額			決算額	令和2年度 決算額
	当初予算額	補正予算額	計		
病院収益	753,792,000	0	753,792,000	762,814,810	765,163,925
医業収益	653,422,000	0	653,422,000	652,257,805	646,135,841
医業外収益	42,205,000	0	42,205,000	60,556,109	65,373,687
医療社会事業収益	58,165,000	0	58,165,000	49,963,250	53,250,205
付帯事業収益	0	0	0	0	0
特別利益	0	0	0	37,646	404,192
科 目	予算現額				令和2年度 決算額
	当初予算額	補正予算額	流用増減額	計	
病院費用	795,771,000	2,100,000	0	797,871,000	732,319,439
医業費用	724,801,000	0	0	724,801,000	667,429,448
医業外費用	7,779,000	2,000,000	0	9,779,000	9,322,190
医療奉仕費用	62,637,000	0	0	62,637,000	55,166,758
付帯事業費用	0	0	0	0	0
特別損失	0	100,000	0	100,000	76,418
法人税等	554,000	0	0	554,000	324,625
予備費	0	0	0	0	0
収支差引額	△ 41,979,000	△ 2,100,000	0	△ 44,079,000	△ 4,415,862

資本的収入および支出

(単位:円)

科 目	予算現額				決算額	令和2年度 決算額
	当初予算額	補正予算額	前年度繰越事業費充当額	計		
病院収入	6,370,000	3,883,000	0	10,253,000	7,949,041	10,803,317
固定負債	1,823,000	3,883,000	0	5,706,000	4,555,540	2,734,900
その他資本収入	4,547,000	0	0	4,547,000	3,393,501	8,068,417
科 目	予算現額				決算額	令和2年度 決算額
	当初予算額	補正予算額	前年度事業費繰越額	計		
病院費	6,370,000	3,883,000	0	10,253,000	7,949,041	10,803,317
固定資産	3,156,000	3,883,000	0	7,039,000	4,973,540	7,813,547
借入金等償還	3,214,000	0	0	3,214,000	2,975,501	2,989,770
収支差引額	0	0	0	0	0	0

利益剰余金

(単位:円)

当期末処分利益(損失)A(a+b)	前期繰越利益(損失) a	当期純利益(損失) b	利益積立金B	利益剰余金合計(A+B)
△ 1,135,652,119	△ 1,166,147,490	30,495,371	0	△ 1,135,652,119

5 裾野赤十字病院

(1) 診療状況の概要

病床数		職員数				入院患者数			外来患者数		
許可 病床数	実働 病床数	医師	看護師	その他	計	延数	1日 平均	1日平均 前年比	延数	1日 平均	1日平均 前年比
床	床	人	人	人	人	人	人	%	人	人	%
104	104	11.1	54.8	54.0	119.9	22,840	62.6	107.4	27,982	104.0	99.8

(2) 訪問看護ステーションの状況

名称	利用者数	訪問看護延回数	従事者数	サービス内容
訪問看護ステーション すその日赤	人 432	回 1,933	人 4	訪問看護

(3) 経営状況

裾野市唯一の二次救急病院であり、又第二種感染症指定医療機関である当院は、地域医療を支える病院として地域住民や行政から大きな期待が寄せられている。本年度の経営状況は入院患者延べ数の増加や新型コロナウイルス感染症患者対応等による診療単価の上昇により、医業収益は前年度比 20.4%増加した。

入院患者数は、昨年度に比べ一般入院患者延べ数は 6.8%増、感染症患者延べ数は 15.3%増となり、結果として入院診療収益は前年度比 39.6%増となった。

また外来患者数は昨年度並みとなったが、CT 撮影等の検査実施により診療単価が上昇した為、結果として外来診療収益は前年度比 4.0%増となった。

新型コロナウイルス感染症包括支援事業等による補助金収益が増加した事に伴い、病院収支は 350,000 千円余の黒字となった。

ア 医療体制の充実強化

本年度は、内科常勤医 2 名の採用があり、午後の外来診療枠を増やした。また訪問診療を積極的に行い、地域医療に貢献した。

地域包括ケア病床を 45 床から 49 床に変更し、地域医療のニーズに応えられる体制を図った。

イ 地域医療連携の充実

コロナ禍により、関係機関との会議や打ち合わせが中止となっている状況だが可能な限り情報収集を行った。入院の紹介・受け入れ相談、退院支援の推進を図り、院内の情報共有化と効率的な運営を図るためベッドコントロール会議を行うなど、地域医療連携の充実に努めた。

ウ 医療安全体制の充実強化

ＩＣＴ（感染対策チーム）と医療安全管理者等による院内巡視を行い、医療安全管理体制の充実強化を実施した。

また全職種の職員の協力を得て、玄関での来院者発熱トリアージを実施するなど感染対策に努めた。

エ 常勤医師の確保

本年度の常勤医師は 7 名（内科 4 名、外科 1 名、整形外科 1 名、健診担当 1 名）となった。

通常の当直業務の他、輪番制の一次救急・二次救急の当番又、感染症指定医療機関として、新型コロナウイルス患者の対応等、近隣市町の求める診療体制を維持するためには、安定的な医師の確保が必要であると考えている。近隣の医療施設訪問や、近年医師紹介会社からの情報の収集・病院ホームページに医師募集サイトの掲載を行う等、医師の確保に努めた。

オ 看護師の確保

昨年度に引き続き、職員の採用計画に対する指導を本社より受けている。現状の厳しい経営状況を考えると医師以外の職員に対する増員は難しいと言える。しかしながら、病院が機能するために必要な最低限の看護職員確保を行わなければ今後に大きな影響が出ることが懸念された。

また、看護補助者の確保についても、確保に困難な状態が続いた。

カ 医療機器等の整備

本年度は、設備関係ではナースコールの老朽化に伴い更新工事を実施した。

医療機器関係では、新型コロナウイルスの関連補助金や寄付金を活用し、ＣＴ装置・超音波エコー・回診用Ｘ線撮影装置等の整備を行った。

また裾野市からの補助金により、筋電図・誘発電位検査装置等の整備を行った。

キ 経営改善

本部管理病院に指定されていることから、業務キャッシュフローの黒字化を目標に本社と継続的な打ち合わせを実施した。

また院内では病院幹部で構成する経営改善推進本部を中心に経営改善に努めた結果、昨年度に比べ医業収支の赤字幅も減少した。

本年度も新型コロナウイルス感染症包括支援事業等による補助金収益で経常収支は黒字となった。

(4) 決算概要

収益の収入および支出

(単位:円)

科 目	予算現額			決算額	令和2年度 決算額
	当初予算額	補正予算額	計		
病院収益	1,545,685,000	0	1,545,685,000	1,944,673,795	1,612,325,411
医業収益	1,382,810,000	0	1,382,810,000	1,325,094,104	1,101,032,240
医業外収益	140,975,000	0	140,975,000	599,265,694	491,852,925
医療社会事業収益	2,554,000	0	2,554,000	2,500,000	2,500,000
付帯事業収益	19,346,000	0	19,346,000	16,893,623	16,940,246
特別利益	0	0	0	920,374	0
科 目	予算現額				令和2年度 決算額
	当初予算額	補正予算額	流用増減	計	
病院費用	1,647,703,000	51,000,000	0	1,698,703,000	1,593,045,361
医業費用	1,606,779,000	50,000,000	0	1,656,779,000	1,556,296,839
医業外費用	5,682,000	0	0	5,682,000	4,978,941
医療奉仕費用	1,335,000	0	0	1,335,000	903,421
付帯事業費用	31,907,000	0	0	31,907,000	27,920,541
特別損失	2,000,000	1,000,000	0	3,000,000	2,945,619
法人税等	0	0	0	0	0
予備費	0	0	0	0	0
収支差引額	△ 102,018,000	△ 51,000,000	0	△ 153,018,000	96,039,275

資本の収入および支出

(単位:円)

科 目	予算現額				決算額	令和2年度 決算額
	当初予算額	補正予算額	前年度繰越事業費充当額	計		
病院収入	138,553,000	76,748,000	0	215,301,000	186,309,319	140,274,577
固定負債	80,700,000	76,748,000	0	157,448,000	157,200,280	118,349,393
その他資本収入	57,853,000	0	0	57,853,000	29,109,039	21,925,184
科 目	予算現額				決算額	令和2年度 決算額
	当初予算額	補正予算額	前年度事業費繰越額	計		
病院費	138,553,000	76,748,000	0	215,301,000	186,309,319	140,274,577
固定資産	87,904,000	76,748,000	0	164,652,000	151,492,720	112,710,763
借入金等償還	50,649,000	0	0	50,649,000	34,816,599	27,563,814
収支差引額	0	0	0	0	0	0

利益剰余金

(単位:円)

当期末処分利益(損失)A(a+b)	前期繰越利益(損失) a	当期純利益(損失) b	利益積立金B	利益剰余金合計(A+B)
△ 722,852,686	△ 1,074,481,120	351,628,434	0	△ 722,852,686

Ⅲ 血液事業概要

静岡県赤十字血液センター

県内では、新型コロナウイルスによる感染者の増加により、8月～9月に緊急事態宣言、1月～3月にはまん延防止等重点措置の期間が適用された。これにより、イベントの中止等や企業献血の受け入れを断られる状況が続き、献血者を確保する環境は前年度に引き続き厳しい状況となった。しかしながら、採血施設での検温・手指消毒・マスク着用・機材等の消毒を徹底したうえで、新しい生活様式として3密を避ける取り組みでもある献血予約が進んだ結果、年間計画とした必要献血者数 131,900 人^{*1} に対する実績は、102.0%の 134,550 人を確保することができた。

また、コロナ禍においても感染防止策を徹底しながら、高校、大学の校内献血を実施し、さらには、学生献血ボランティアの募集・育成、献血セミナーの開催などを通じて若年層への献血啓発に努めた。

輸血用血液製剤の供給数は、新型コロナウイルスの影響もあり 428,493 単位で前年対比 98.4%となり、主に血漿製剤、血小板製剤が減少した。新型コロナウイルスの感染拡大が懸念される中、輸血用血液製剤の需要動向を注視し、県内の血液型別在庫状況を相互に情報交換して管理を徹底するとともに東海北陸ブロック血液センターとも連携して的確な需要予測を行うことで血液製剤の安定供給と有効利用に努めた。

(1) 献血及び供給状況の推移

年度	献血状況		供給状況	
	献血者数 (人)	対前年比 (%)	供給数 (単位)	対前年比 (%)
平成 29 年度	125,056	97.3	452,526.0	101.4
平成 30 年度	123,665	98.9	429,835.0	95.0
令和元年度	127,327	103.0	452,881.0	105.4
令和 2 年度	131,251	103.1	435,333.0	96.1
令和 3 年度	134,550	102.5	428,493.0	98.4

※平成 29 年度から血漿製剤の単位換算が、下記のとおり変更となった。

FFP-LR120：1.5 単位→1 単位、FFP-LR240：3 単位→2 単位、FFP-LR480：5 単位→4 単位

(2) 献血者数及び献血率

職員数 (医師) R 4.3.31 現在	献血可能 人口 H3 1.10 月現在	上段：献血目標(人)				達成率	献血率	対前年比 献血者数
		下段：献血実績(人)						
		200mL	400mL	成 分	合 計			
静岡センター 73(2)	728,630	1,105	31,780	15,305	48,190	92.2	6.1	102.9
		1,017	28,936	14,478	44,431			
沼津事業所 66(2)	742,198	1,150	32,010	14,990	48,150	93.6	6.1	102.0
		1,399	28,458	15,211	45,068			
浜松事業所 56(2)	844,604	1,245	32,910	15,305	49,460	91.1	5.3	102.6
		1,639	29,428	13,984	45,051			
合 計 195(6) *3	2,315,432	3,500	96,700	45,600	145,800 *2	92.3	5.8	102.5
		4,055	86,822	43,673	134,550			

*1 必要献血者数(131,900人)

ブロック内の需給見込みから割り当てられた静岡県での採血必要人数。

*2 献血目標(145,800人)

必要献血者数を確保するために服薬や事前の検査などで献血できない方をあらかじめ見込んで設定する目標人数(=献血受付け数)

*3 嘱託・パート含む実数

(3) 供給単位数及び内訳

静岡県内への供給本数

区分 施設名	総供給数 (単位)	全血 製剤	構成比 (%)	赤血球 製 剤	構成比 (%)	血 漿 製 剤	構成比 (%)	血小板 製 剤	構成比 (%)
静岡センター	151,311	0	—	59,010	39.0	19,206	12.7	73,095	48.3
沼津事業所	133,722	0	—	58,806	44.0	14,206	10.6	60,710	45.4
浜松事業所	143,460	0	—	54,828	38.2	13,477	9.4	75,155	52.4
合 計	428,493	0	—	172,644	40.3	46,889	10.9	208,960	48.8

※「構成比」は端数処理しているため、合計が必ずしも100%にはならない。

（４）献血推進運動

ア 愛の血液助け合い運動

7月1日から31日まで、国・都道府県・日本赤十字社の主催で多数の後援団体、協賛団体の協力を得て全国一斉に「愛の血液助け合い運動」を行った。

静岡県内における「愛の血液助け合い運動」では、県健康福祉部と協力して立て看板の設置や、ポスターを各市町、事業所等関係機関に配布し、啓発に努めた。

イ 全国学生献血キャンペーン

学生献血ボランティアが、7月に「東海北陸ブロック統一学生サマー献血キャンペーン」、12月に「全国学生クリスマス献血キャンペーン」を静岡市、富士宮市、浜松市において開催した。血液が不足する時期のキャンペーンは効果的であり、大学生たちが同年代の若者に献血への理解と協力を呼びかけた。

ウ はたちの献血キャンペーン

1月1日から2月28日まで、一般社団法人日本民間放送連盟、一般社団法人日本民営鉄道協会及び一般社団法人日本コミュニティ放送協会の協力を得て実施した。

また、タレントの山之内すずさん、ぺこぱさんがキャンペーンキャラクターとなり、マスメディアなどを通じ若者に対して血液の知識、献血の重要性を訴えるなど、広くキャンペーンの周知を行った。

エ その他の事業

静岡県から「献血思想定着推進事業」を委託され、学生ボランティアの育成や支援などを実施した。また、高等学校では新型コロナウイルスの影響による中止があった中、献血未実施の高等学校を訪問し、令和4年度に新たに3校で献血実施が予定されるなど、効果が得られた。

オ 第57回献血運動推進全国大会

新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から中止となった。

カ 静岡県献血推進大会

新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から式典は中止となったが、日頃から献血推進に積極的に協力し、貢献した個人や団体に、血液センターから訪問し厚生労働大臣表彰状及び感謝状、静岡県知事褒賞、日本赤十字社有功章、日本赤十字社静岡県支部長感謝状を進呈したとともに感謝の意を伝えた。

表彰団体数及び表彰者数

◆厚生労働大臣表彰状	3 団体	
◆厚生労働大臣感謝状	9 団体	
◆静岡県知事褒賞	9 団体	
◆日本赤十字社金色有功章	〈個人〉 187 人	〈団体〉 15 団体
◆日本赤十字社銀色有功章	〈個人〉 283 人	〈団体〉 15 団体
◆日本赤十字社静岡県支部長感謝状（金枠）		15 団体
◆日本赤十字社静岡県支部長感謝状（銀枠）		15 団体

（５）骨髄ドナー登録事業

骨髄バンク事業は、「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」に基づく骨髄・末梢血幹細胞提供あっせん事業者としての日本骨髄バンクが主体となり、日本赤十字社と都道府県等の協力によって行われ、血液センターは骨髄提供希望者に対する登録受付及び登録データ管理業務を実施した。

本年度も静岡県との協力によって、５８７人の登録者を確保した。

登録者数

◆令和４年３月末現在	9, 196人（静岡県内）
	887, 451人（全国）

Ⅳ 資料

1 静岡県支部役職員名簿・奉仕者組織役員名簿

<役 員>

(令和4年3月31日現在)

役 名	氏 名	公 職
支 部 長	川 勝 平 太	静岡県知事
副 支 部 長	菊 地 豊	伊豆市長
//	太 田 康 雄	森町長
//	石 田 貴	静岡県健康福祉部長
監 査 委 員	遠 藤 一 秀	遠藤科学株式会社 取締役社長
//	鈴 木 雅 春	元 静岡県監査委員事務局長
//	村 上 勇 夫	静岡県自治会連合会副会長
理 事	瀧 義 弘	前 日本赤十字社静岡県支部協賛委員会会長
代 議 員	菊 地 豊	伊豆市長
//	太 田 康 雄	森町長
//	榊 原 昭 雄	日本赤十字社静岡県支部協賛委員会会長
//	田 口 博	日本赤十字社静岡県支部協賛委員会委員
//	小 木 絹 代	静岡県地域赤十字奉仕団委員会委員長
//	松 永 博	静岡県無線赤十字奉仕団委員長
//	鈴 木 雅 春	元 静岡県監査委員事務局長

<評議員>

(令和4年3月31日現在)

氏 名	職 業 及 び 公 職	地 区 支部長	選出別	備 考
田 辺 信 宏	静岡市長	静 岡 市	選 出	
瀧 義 弘	静岡市自治会連合会会長(葵区)	静 岡 市	//	本社理事
高 山 茂 宏	静岡市自治会連合会副会長(清水区)	静 岡 市	//	
鈴 木 康 友	浜松市長	浜 松 市	//	
田 口 博	浜松市自治会連合会会長	浜 松 市	//	本社代議員
加 藤 君 子	浜松市天竜赤十字奉仕団委員長	浜 松 市	//	
頼 重 秀 一	沼津市長	沼 津 市	//	
菅 沼 厚 子	沼津市赤十字奉仕団委員長	沼 津 市	//	
小長井 義 正	富士市長	富 士 市	//	
秋 山 珠 美	富士市赤十字奉仕団委員長	富 士 市	//	
齊 藤 栄	熱海市長	熱 海 市	//	
豊 岡 武 士	三島市長	三 島 市	//	

氏 名	職 業 及 び 公 職	地 区 支部長	選出別	備 考
須 藤 秀 忠	富士宮市長	富 士 宮 市	//	
小 野 達 也	伊東市長	伊 東 市	//	
染 谷 絹 代	島田市長	島 田 市	//	
草 地 博 昭	磐田市長	磐 田 市	//	
中 野 弘 道	焼津市長	焼 津 市	//	
久 保 田 崇	掛川市長	掛 川 市	//	
北 村 正 平	藤枝市長	藤 枝 市	//	
勝 又 正 美	御殿場市長	御殿場市	//	
大 場 規 之	袋井市長	袋 井 市	//	
松 木 正一郎	下田市長	下 田 市	//	
村 田 悠	裾野市長	裾 野 市	//	
影 山 剛 士	湖西市市長	湖 西 市	//	
菊 地 豊	伊豆市長	伊 豆 市	//	副支部長／本社代議員
柳 澤 重 夫	御前崎市長	御前崎市	//	
長谷川 寛 彦	菊川市長	菊 川 市	//	
山 下 正 行	伊豆の国市長	伊豆の国市	//	
杉 本 基久雄	牧之原市長	牧之原市	//	
太 田 康 雄	森町長	周 智 郡	//	副支部長／本社代議員
深 澤 準 弥	松崎町長	賀 茂 郡	//	
仁 科 喜世志	函南町長	田 方 郡	//	
池 谷 晴 一	小山町長	駿 東 郡	//	
田 村 典 彦	吉田町長	榛 原 郡	//	
桧 原 昭 雄	日本赤十字社静岡県支部協賛委員会会長	支 部 長 選 出		本社代議員
山 口 郊治郎	日本赤十字社静岡県有功会裾野市支会長	//		
小 木 絹 代	静岡県地域赤十字奉仕団委員会委員長	//		本社代議員
松 永 博	静岡県無線赤十字奉仕団委員長	//		本社代議員
後 藤 康 雄	(福) 静岡県共同募金会会長	//		
神 原 啓 文	(福) 静岡県社会福祉協議会会長	//		
横 山 秀 雄	(株) 静岡新聞社 常務取締役	//		
近 藤 浩 通	静岡県青少年赤十字指導者協議会会長	//		

(任期：令和4年2月14日～令和7年2月13日)

＜赤十字奉仕団静岡県支部委員会役員＞

（令和4年3月31日現在）

役 名	氏 名	奉 仕 団 及 び 役 名
委 員 長	小 木 絹 代	静岡県地域赤十字奉仕団委員会委員長 浜松市浜北赤十字奉仕団委員長
副委員長	松 永 博	静岡県無線赤十字奉仕団委員長
//	菅 沼 博 明	静岡県赤十字水上安全奉仕団委員長
//	加 藤 君 子	静岡県地域赤十字奉仕団委員会副委員長 浜松市天竜赤十字奉仕団委員長

（任期：令和3年5月27日～令和5年5月26日）

＜日本赤十字社静岡県支部協賛委員会役員＞

（令和4年3月31日現在）

役 名	氏 名	地 区 分 区 及 び 役 名
会 長	榊 原 昭 雄	沼津市協賛委員会会長
副会長	村 上 勇 夫	磐田市協賛委員会会長
//	小 林 一 男	藤枝市協賛委員会会長
//	山 下 聖 秋	三島市協賛委員会会長

（任期：令和3年6月18日～令和5年4月19日）

＜日本赤十字社静岡県有功会役員＞

（令和4年3月31日現在）

役 名	氏 名	支 会 及 び 役 名
会 長	片 川 昭 壽	日本赤十字社静岡県有功会島田市支会会長
副会長	池 谷 滋 雄	日本赤十字社静岡県有功会富士宮市支会会長
//	菅 沼 成 欣	日本赤十字社静岡県有功会湖西市支会会長
//	山 本 良 一	日本赤十字社静岡県有功会三島市支会会長

（任期：令和3年5月31日～令和5年5月30日）

<地域赤十字奉仕団結成状況>

(令和4年3月31日現在)

奉仕団名		委員長	団員数		
			男	女	計
1	下田市	大黒 愛子	0	43	43
2	伊東市	吉岡 マサエ	0	380	380
3	熱海市	椎野 政子	24	242	266
4	伊豆市	赤堀 まさ子	2	101	103
5	伊豆の国市	天野 えり子	0	276	276
6	三島市	飯田 由利子	0	53	53
7	沼津市	菅沼 厚子	2	254	256
8	裾野市	根本 年代	0	287	287
9	御殿場市	勝又 実子	0	76	76
10	富士宮市	望月 勇	8	19	27
11	富士市	秋山 珠美	0	75	75
12	静岡市清水区	加藤 智代	6	56	62
13	静岡市葵・駿河区	水谷 倫子	9	341	350
14	焼津市焼津	奥川 恵美子	0	260	260
15	焼津市大井川	村松 朝代	1	93	94
16	藤枝市藤枝	菊川 厚代	0	36	36
17	藤枝市岡部	大須賀 直子	0	128	128
18	島田市	森下 文子	0	255	255
19	牧之原市	八木 公代	5	324	329
20	御前崎市	村松 澄子	0	430	430
21	菊川市	木村 敏子	1	78	79
22	掛川市	武田 和子	1	318	319
23	袋井市	栗原 光子	0	36	36
24	磐田市	鈴木 恵子	2	71	73
25	浜松市雄踏	高橋 光子	0	34	34
26	浜松市引佐	森下 友子	0	5	5
27	浜松市三ヶ日	長坂 寿美代	0	35	35
28	浜松市天竜	加藤 君子	9	229	238
29	浜松市春野	喚田 恵子	0	18	18
30	浜松市佐久間	平賀 むつみ	1	57	58
31	浜松市浜北	小木 絹代	4	54	58
32	湖西市	山口 萬知子	0	82	82
33	松崎町	佐藤 勝子	0	28	28
34	函南町	泉明寺 葉子	0	107	107
35	清水町	山本 加奈恵	1	26	27
36	長泉町	渡邊 靖子	13	113	126
37	小山町	小宮山 富枝	0	70	70
38	吉田町	塚本 里子	0	114	114
39	川根本町	高田 博子	0	101	101
40	森町	金子 眞澄	0	3	3
計			89	5,308	5,397

<県支部・施設 幹部職員>

(令和4年3月31日現在)

施 設 名	職 名	氏 名
日本赤十字社静岡県支部	事 務 局 長	鈴 木 亨
	事 務 局 次 長	上 野 秀 実
	事 務 局 付 部 長	梶 山 和 彦
	総 務 課 長 (兼)	上 野 秀 実
	組 織 振 興 課 長 (兼)	梶 山 和 彦
	事 業 推 進 課 長	橋 本 茂 昭
	参 事	脇 田 朱 己
静 岡 赤 十 字 病 院	院 長	小 川 潤
	副 院 長	久保田 英 司
	副 院 長	間 淵 元 子
	事 務 部 長	渡 辺 憲 朗
	看 護 部 長 (兼)	間 淵 元 子
浜 松 赤 十 字 病 院	院 長	奥 田 康 一
	副 院 長	俵 原 敬
	副 院 長	西 脇 眞
	副 院 長	荻 原 弘 晃
	事 務 部 長	落 合 肇
	看 護 部 長	小 林 儿 ミ
伊 豆 赤 十 字 病 院	院 長	志 賀 清 悟
	副 院 長	吉 田 剛
	事 務 部 長	矢 田 幸 政
	看 護 部 長	青 木 悦 子
引 佐 赤 十 字 病 院	院 長	山 本 隆 久
	事 務 部 長	東 日出也
	看 護 部 長	伊 藤 宏 子
裾 野 赤 十 字 病 院	院 長	芦 川 和 広
	事 務 部 長	杉 山 善 彦
	看 護 部 長	櫻 井 真理子
静岡県赤十字血液センター	所 長	鶴 田 憲 一
	事 務 部 長	加 藤 和 彦
	事 業 推 進 部 長	藤 村 優 二
	沼津事業所長 (兼)	藤 村 優 二
	浜松事業所長 (兼)	加 藤 和 彦

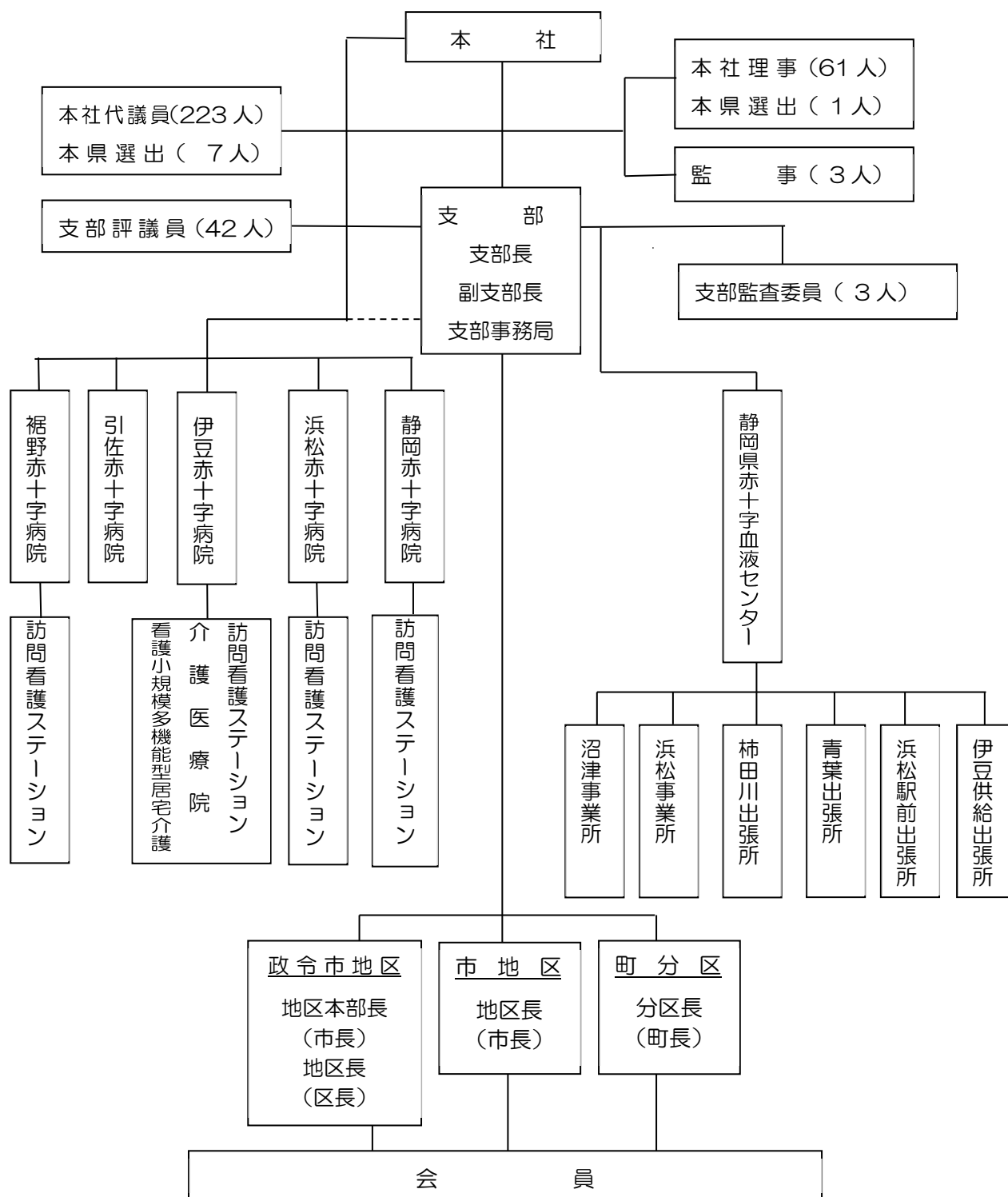
2 令和3年度主要行事一覧

月日または区分		行 事 名	開催場所
4 月	13 日 14 日 16 日 19 日 20 日 27 日 27日~28日	地区区分赤十字運動打ち合わせ会（静岡市清水地区以東） 地区区分赤十字運動打ち合わせ会（静岡市葵・駿河地区以西） 静岡県地域赤十字奉仕団委員会 静岡県青少年赤十字指導者協議会評議員会・総会 日本赤十字社静岡県支部協賛委員会 地区区分新任実務担当者研修会 県内赤十字施設新規採用職員研修会	静岡県支部 静岡県支部 静岡県産業経済会館 静岡県産業経済会館 静岡県支部 静岡県支部 Web
5 月	25 日 文書 文書 文書 中止	日本赤十字社静岡県支部監査委員監査 日本赤十字社静岡県有功会総会 赤十字奉仕団静岡県支部委員会 静岡県青少年赤十字指導担当者研修会 全国赤十字大会	静岡県支部 — — — —
6 月	14 日 17 日 25 日 文書 中止	日本赤十字社静岡県支部評議員会 静岡県青少年赤十字校長・副校長・教頭研修会 日本赤十字社理事会 日本赤十字社代議員会 救護員基礎研修	静岡県産業経済会館 Web Web — —
7 月	1 日 中止	地域赤十字奉仕団ボランティア・リーダーシップ研修会（西部） 地域赤十字奉仕団ボランティア・リーダーシップ研修会（東部）	掛川グランドホテル —
8 月	25 日~16 日 中止 中止 中止	県内赤十字施設中堅職員研修会 静岡県青少年赤十字東部地区リーダーシップ・トレーニング・センター 炊き出しリーダー養成講習会 静岡県献血推進大会	Web — — —
9 月	15 日~16 日 中止 中止 中止	県内赤十字施設係長研修会 静岡県総合防災訓練 ワールド・ファーストエイド・デー広報イベント 静岡県支部・静岡赤十字病院合同災害救護訓練	Web — — —
10 月	12 日 17 日 文書 中止	静岡県地域赤十字奉仕団委員会 第 3 ブロック支部合同災害救護訓練 紺綬・有功会会長協議会総会 第 10 回赤十字救急法競技会	— 静岡県産業経済会館 浜松赤十字病院 —
11 月	12 日 26 日	日本赤十字豊田看護大学支部長推薦選考試験 日本赤十字社理事会	静岡県支部 Web
12 月	1 日~25 日	NHK 海外たすけあいキャンペーン	県内各地
1 月	文書	日本赤十字社静岡県支部評議員会	—
2 月	中止	防災ボランティア研修（dERU 展開）	—
3 月	文書 中止	日本赤十字社理事会・代議員会 有功会視察研修	— —

3 日本赤十字社静岡県支部の機構及び沿革

(1) 機 構

(令和4年3月31日現在)



(2) 沿 革

明治22年10月 静岡市駿府町に日本赤十字社静岡委員部発足
明治28年 1月 静岡委員部を静岡支部と改称
昭和 8年 6月 日本赤十字社静岡支部病院＜静岡赤十字病院＞開設
昭和 9年 7月 日本赤十字社静岡支部伊豆診療所＜伊豆赤十字病院＞開設
昭和13年 3月 日本赤十字社静岡支部浜松診療所＜浜松赤十字病院＞開設
昭和17年11月 日本赤十字社静岡支部中駿診療所＜中駿赤十字病院＞開設
昭和18年 1月 静岡赤十字病院発足
昭和20年 4月 浜松赤十字病院発足
昭和21年 6月 日本赤十字社静岡支部引佐診療所＜引佐赤十字病院＞開設
昭和26年 3月 引佐赤十字病院発足
昭和26年 8月 伊豆赤十字病院発足
昭和27年 7月 中駿赤十字病院発足
昭和27年10月 静岡支部を静岡県支部と改称
昭和28年 9月 静岡県支部静岡市追手町に移転
昭和38年10月 浜松療護園の経営管理を県より受託＜浜松リハビリテーションセンター＞
昭和39年10月 静岡県赤十字会館竣工
昭和39年11月 静岡県赤十字血液銀行＜静岡県赤十字血液センター＞開設
昭和39年12月 静岡県赤十字血液センター発足
昭和40年 7月 静岡県赤十字血液センター浜松出張所＜浜松赤十字血液センター＞開設
昭和45年 4月 静岡県赤十字血液センター沼津出張所＜沼津赤十字血液センター＞開設
昭和45年 5月 浜松赤十字血液センター独立開設
昭和57年 3月 静岡県赤十字血液センター 静岡市北安東に新築（移転）工事竣工
昭和60年 2月 静岡赤十字病院本館増改築工事竣工
昭和61年 4月 浜松療護園を浜松リハビリテーションセンターに改称
昭和63年 3月 静岡県沼津赤十字血液センター新築工事竣工
昭和63年 5月 浜松赤十字血液センター浜松駅出張所＜メイ・ワン献血ルーム＞開設
平成 2年 4月 静岡県赤十字血液センター青葉出張所＜あおば献血ルーム＞開設
平成 4年 5月 静岡赤十字病院救命救急センター開設
平成 7年 3月 静岡赤十字看護専門学校 静岡市与一に新築移転
平成 8年 3月 引佐赤十字病院新築・改装工事竣工
平成 8年10月 静岡県沼津赤十字血液センター沼津駅前出張所＜献血ルームパレット＞開設
平成 8年11月 静岡赤十字病院災害拠点病院＜地域災害医療センター＞に県より指定
平成 9年 3月 伊豆赤十字病院新改築工事竣工
平成 9年 6月 静岡赤十字病院別館増改築工事竣工
平成 9年 7月 中駿赤十字病院を裾野赤十字病院に改称
平成 9年12月 裾野赤十字病院増改築工事竣工
平成10年 3月 日本赤十字社静岡県支部新社屋建築工事竣工

平成11年 1月 浜松赤十字血液センター耐震総改築工事竣工

平成12年 3月 浜松赤十字血液センター浜松駅前出張所〈献血ルームみゅうず〉移転開設

平成12年 4月 県内血液センターの一体化に伴い、浜松赤十字血液センターを静岡県浜松赤十字血液センターと改称

平成13年 3月 静岡県赤十字血液センター青葉出張所〈献血ルームあおば〉移転開設

平成14年 3月 浜松リハビリテーションセンター廃園

平成14年 4月 伊豆赤十字病院介護老人保健施設〈グリーンズ修善寺〉開設

平成15年 3月 静岡県沼津赤十字血液センター沼津駅前出張所〈献血ルームエイブル〉移転開設

平成16年 3月 静岡県赤十字血液センター事務棟増築改修工事竣工

平成17年 3月 静岡赤十字看護専門学校閉校

平成19年11月 浜松赤十字病院 浜松市浜北区小林に移転開院

平成24年 3月 血液事業のブロックセンター設置に伴い静岡県沼津赤十字血液センター及び静岡県浜松赤十字血液センターを廃止（平成24年4月より事業所として運営）

平成24年 7月 静岡県赤十字血液センター沼津事業所柿田川出張所〈献血ルーム・柿田川〉移転開設

平成24年11月 静岡赤十字病院3号館竣工

平成25年 7月 浜松赤十字病院災害拠点病院〈地域災害医療センター〉に県より指定

平成26年 1月 静岡赤十字病院1号館（北側部分）竣工

平成26年 4月 静岡県赤十字血液センター伊豆供給出張所開設

平成26年10月 浜松赤十字病院内支部災害救護倉庫竣工

平成27年11月 静岡赤十字病院1号館（南側部分）竣工

平成28年11月 静岡赤十字病院（全面）竣工

平成31年 4月 静岡赤十字病院〈しずおか日赤訪問看護ステーション〉開設

平成31年 4月 伊豆赤十字病院看護小規模多機能型居宅介護事業所〈レクロス小立野〉開設

令和元年 5月 静岡県赤十字血液センター 静岡市葵区竜南に新築（移転）工事竣工

令和3年 5月 伊豆赤十字病院介護老人保健施設〈グリーンズ修善寺〉を介護医療院へ転換

4 日本赤十字社静岡県支部施設一覧

(令和4年3月31日現在)

施設名	所在地	電話番号
日本赤十字社静岡県支部	〒420-0853 静岡市葵区追手町 44-17	054-252-8131
静岡赤十字病院	〒420-0853 静岡市葵区追手町 8-2	054-254-4311
しずおか日赤訪問看護ステーション	〒420-0032 静岡市葵区両替町 1-7-5	054-254-4500
浜松赤十字病院	〒434-8533 浜松市浜北区小林 1088-1	053-401-1111
日赤訪問看護ステーション	〒434-8533 浜松市浜北区小林 1088-1	053-585-3676
伊豆赤十字病院	〒410-2413 伊豆市小立野 100	0558-72-2148
伊豆赤十字病院介護医療院	〒410-2413 伊豆市小立野 100-2	0558-74-3300
訪問看護ステーション伊豆日赤	〒410-2413 伊豆市小立野 100-2	0558-72-8337
看護小規模多機能型居宅介護事業所 レクロス小立野	〒410-2413 伊豆市小立野 100-2	0558-72-0960
引佐赤十字病院	〒431-2213 浜松市北区引佐町金指 1020	053-542-0115
裾野赤十字病院	〒410-1118 裾野市佐野 713	055-992-0008
訪問看護ステーション すその日赤	〒410-1118 裾野市佐野 713	055-993-5070
静岡県赤十字血液センター	〒420-0804 静岡市葵区竜南 1-26-19	054-247-7141
青葉出張所 (献血ルーム・あおば)	〒420-0035 静岡市葵区七間町 8-20 毎日江崎ビル 6F	054-272-5858
静岡県赤十字血液センター沼津事業所	〒410-0302 沼津市東椎路春ノ木 567	055-924-6611
柿田川出張所 (献血ルーム・柿田川)	〒411-0907 駿東郡清水町伏見 58-26	055-991-7575
静岡県赤十字血液センター浜松事業所	〒435-0003 浜松市東区中里町 1013	053-422-1113
浜松駅前出張所 (献血ルーム・みゅうず)	〒430-0928 浜松市中区板屋町 110-5 浜松第一生命日通ビル 1F	053-413-2070
伊豆供給出張所	〒410-2413 伊豆市小立野 100	0558-73-2700

5 医療施設概況

(令和4年3月31日現在)

病院名		静岡赤十字病院	浜松赤十字病院	伊豆赤十字病院	引佐赤十字病院	裾野赤十字病院
所在地		静岡市葵区追手町8-2	浜松市浜北区小林1088-1	伊豆市小立野100	浜松市北区引佐町金指1020	裾野市佐野713
開設年月日		昭和8年6月11日	昭和13年3月17日	昭和9年7月1日	昭和21年6月1日	昭和17年11月1日
病床数	許可病床	465床	312床	94床	99床	104床
	実働病床	465床	312床	94床	99床	104床
診療科		28科	22科	7科	3科	7科
		内科 血液内科 糖尿病・代謝内科 精神神経科 脳神経内科 リウマチ科 呼吸器内科 消化器内科 循環器内科 小児科 呼吸器外科 外科 整形外科 形成外科 脳神経外科 心臓血管外科 皮膚科 泌尿器科 産婦人科 眼科 耳鼻咽喉科 気管食道外科 消化器科外科 病理診断科 放射線科 リハビリテーション科 麻酔科 救急科	内科 呼吸器内科 消化器内科 循環器内科 小児科 外科 肛門外科 整形外科 脳神経外科 形成外科 皮膚科 泌尿器科 産婦人科 眼科 耳鼻咽喉科 麻酔科 放射線科 リハビリテーション科 歯科口腔外科 精神科 病理診断科 血管外科	内科 精神科 小児科 外科 整形外科 産婦人科 泌尿器科	内科 整形外科 リハビリテーション科	内科 外科 整形外科 婦人科 脳神経外科 放射線科 リハビリテーション科
特色※		救命、工拠、臓、地災、地援、訪	工拠、地災、地援、訪、包	介医、訪、療、包、看多機	療	感、訪、包
救急告示日		昭和41年3月31日	昭和41年10月1日	昭和41年11月25日	—	昭和43年11月29日

※救命：救命救急センター 工拠：エイズ治療拠点病院 臓：臓器提供施設 地災：地域災害拠点病院

地援：地域医療支援病院 感：第2種感染症指定医療機関 介医：介護医療院 訪：訪問看護ステーション

療：療養病床 包：地域包括ケア病棟・病床 看多機：看護小規模多機能型居宅介護

<MEMO>



この印刷物は、みなさまからいただいた資金で作っています。